

平成25年度

大阪大学

大学院副専攻プログラム
大学院等高度副プログラム



全学教育推進機構

Center for Education in Liberal Arts and Sciences

はじめに

昨今、社会の複雑化により、一分野の主専攻のみでは対応できない状況が増えています。この状況を鑑み、本学では、学際融合教育（学部・研究科等の枠にとらわれない教育）を推進しています。その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる体制として「大阪大学大学院副専攻プログラム」、「大阪大学大学院等高度副プログラム」を用意しています。

大阪大学は、多数の研究科・研究所・センター等からなる総合大学です。提供されているプログラムは、それぞれの専門分野を組み合わせで編成されており、多様かつ膨大です。この教育環境を最大限利用してみませんか。

このプログラムを履修することで、今までより大きな視野で物事を考えることができるようになり、主専攻にもプラスに作用すると確信しています。

副専攻プログラム・高度副プログラムは、主専攻の教育プログラムに加えて、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うための履修プログラムです。

履修に際しては、主専攻の科目の履修計画、研究室での研究活動計画などをよく確認して、プログラムの履修計画を立てるようにしてください。

本学では、学際融合教育（学部・研究科等の枠にとらわれない教育）として、「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」以外に、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」を提供しています。

プログラム	大学院副専攻プログラム 【プログラム履修】	大学院等高度副プログラム 【プログラム履修】	知のジムナスティックス (高度教養プログラム) 【科目履修】
目 的	プログラムの教育目標に沿って配置された複数の科目を修得し、自分の専門とは異なる領域の「主専攻に準ずるまとまった知の塊」を得る。	プログラムの教育目標に沿って配置された複数の科目を修得し、自分の専門とは異なる領域の「まとまった知の塊」を得る。	社会人として必要なつよさ・しなやかさ・バランス感覚を兼ね備えた知性を養う。
対 象	・大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く）	・大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く） ・一部プログラムは6年制課程の学部（医学部・歯学部・薬学部）の5、6年次学生	・全学3年次以上の学部学生 ・大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)
概 要	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を、主専攻に準ずるレベルで体系的に学ぶプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。高度副プログラムより修了要件単位数が多い。	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を体系的に学ぶプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。副専攻プログラムより修了要件単位数が少ない。	他の専門分野の科目及び共通的に学ぶべき科目等について各部局から提供を受ける。履修内容は、自分の所属部局以外の科目の中から、個人の必要性に応じ、自分でコーディネートする。
提 供 数 (平成25年度)	4プログラム (140科目以上)	45プログラム (1,000科目以上)	370科目以上
履 修 者 数 (平成24年度)	176	719	302 (学部学生) 1,134 (大学院学生)
プログラム 開 始 申 請	必要 (プログラム申請と科目履修登録)	必要 (プログラム申請と科目履修登録)	不要 (科目履修登録のみ)
要 件 単 位	あり（14単位以上） ＊14単位以上の一貫した専門性をもつ内容から構成されており、所属する研究科の修了要件単位と7単位までは重なっていてもかまわない。（詳細はP7参照）	あり（8単位以上） ＊8単位以上のまとまった内容から構成されており、所属する研究科・学部の修了・卒業要件単位と4単位までは重なっていてもかまわない。（詳細はP7参照）	なし ＊1科目から履修可能
修了認定証	発行あり	発行あり	発行なし（成績証明書に「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」科目である旨を記載）
専攻の修了と プログラム との関係	研究科 修了要件単位 (30単位*) 当該プログラムの ためのみの単位 7単位 副専攻プログラム 修了要件単位 (14単位以上) 専攻の修了 + 副専攻プログラム 修了 *博士前期課程の場合	研究科 修了要件単位 (30単位*) 当該プログラムの ためのみの単位 4単位 副プログラム 修了要件単位 (8単位以上) 専攻の修了 + 高度副プログラム 修了 *博士前期課程の場合	研究科 修了要件 単位(30単位*) 知のジムナスティックス(高度教養プログラム) (修了要件外単位) 専攻の修了 *博士前期課程の場合

なお、「副専攻プログラム」、「高度副プログラム」の構成科目の中には、同時に「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」である科目もあり、どちらにも認められます。

目 次

1. プログラムの概要	1
(1) 「大学院副専攻プログラム」「大学院等高度副プログラム」とは	
(2) プログラムの種類の違い	
(3) プログラム履修開始から修了までの流れの例	
2. 履修対象者・履修条件等について	3
(1) 履修対象者	
(2) 履修条件	
(3) 費用	
3. 各プログラムのカリキュラム内容について	4
(1) プログラムのカリキュラムについて	
(2) プログラムの修了要件の満たし方について	
(3) プログラムの授業科目の開講期間について	
4. プログラム申請等に関する手続について	5
(1) プログラム受講開始時の手続について	
(2) プログラム及びプログラム科目に関わる通知について	
(3) プログラムの修了について	
(4) プログラムの内容に関する問い合わせについて	
5. プログラム選択の支援について	6
(1) 各プログラムの合同ガイダンスについて	
(2) 「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム（Web）」について	
(3) その他の広報活動について	
EX. 補足事項	7
(1) 単位修得方法の注意点	
(2) プログラム申請前の修得単位の扱いについて	
(3) プログラムを修了しないで研究科を修了した場合の科目の取り扱いについて	
平成25年度 各プログラム個別紹介	
(副専攻プログラム)	
・プログラム及び説明会予定一覧	13
・各プログラム紹介	14～21
(高度副プログラム)	
・プログラム及び説明会予定一覧	25～27
・各プログラム紹介	28～117
学際融合教育科目について	118

1 プログラムの概要

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」とは、どのようなものか解説します。

(1) 「大学院副専攻プログラム」「大学院等高度副プログラム」とは

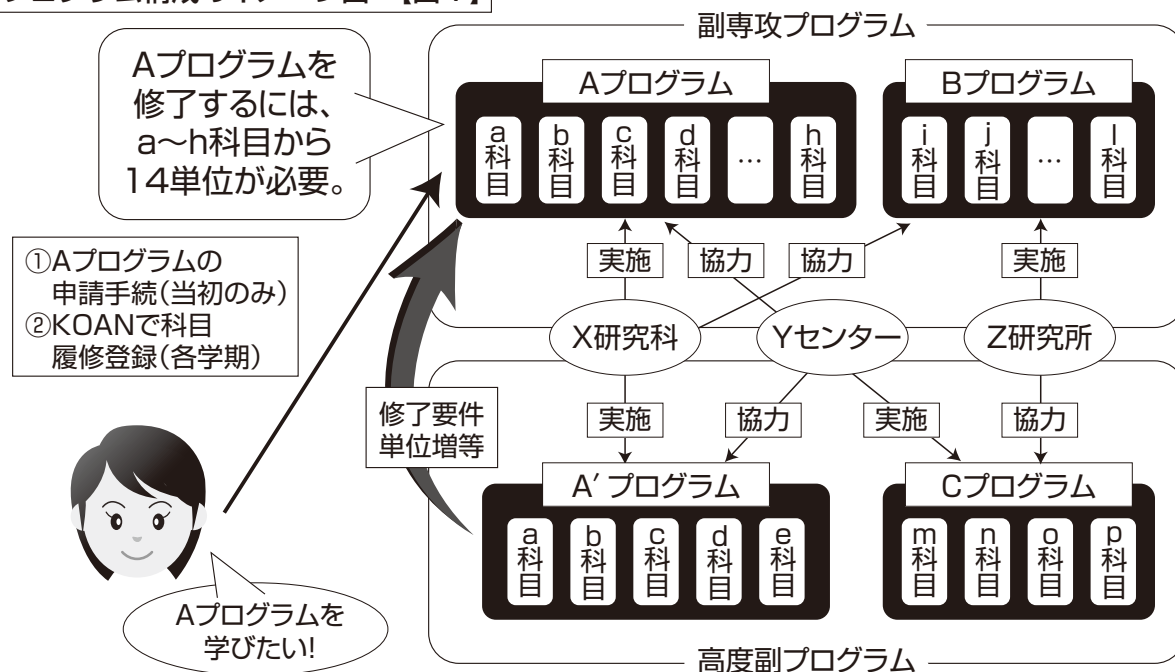
「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が**所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラム**です。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った、一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、所属する大学院の課程を修了（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）する際に当該プログラムの修了認定証が交付されます。

平成25年度は、「副専攻プログラム」4プログラム、「高度副プログラム」45プログラムが実施されます。

イメージとしては、以下の図のようになります。

プログラム構成のイメージ図 【図1】



【図1】の例では、副専攻プログラムの1つとして、「Aプログラム」という教育プログラムがあります。「Aプログラム」は、X研究科がYセンターの協力のもと実施しているプログラムであり、同研究科・センターが開講しているa～h科目で構成されています。「Aプログラム」については、その中から14単位を修得すれば修了することができると定められています。

この例と同じように、他にもさまざまな研究科・研究所・センターなどが実施部局^{*1}あるいは

協力部局となり、独自に体系的な教育プログラムを構成しています。

なお、「Aプログラム」と「A'プログラム」のように、「副専攻プログラム」と「高度副プログラム」で、同じ教育目標を掲げるプログラムもありますが、多くの場合、修得すべき科目が「副専攻プログラム」の方が多く設定され、より詳細な内容を学んだと認定されます。

(※1) ここでの「部局」とは、大阪大学に置かれた「学部・研究科」「附置研究所」「学内共同教育研究施設」「全国共同利用施設」等を指します。

(2) プログラムの種類の違い

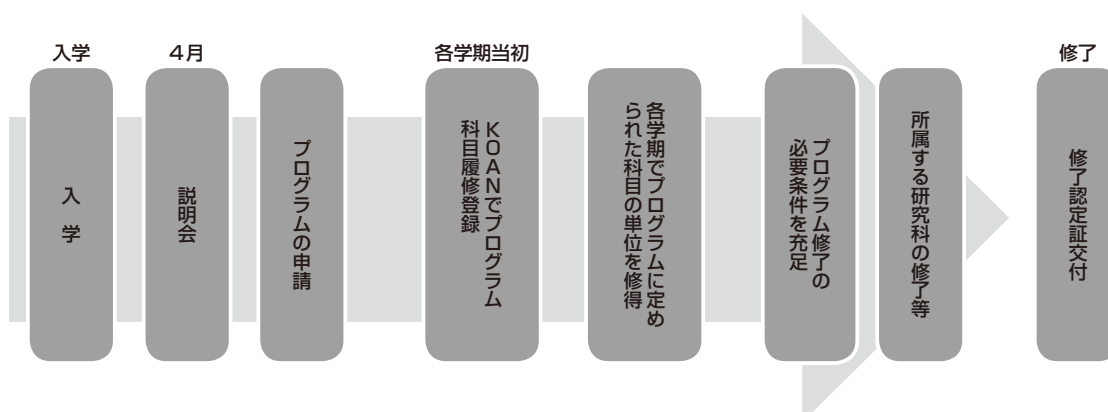
プログラムは、主に以下のように区別されています。

	大学院副専攻プログラム	大学院等高度副プログラム
定義	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を、主専攻に準ずるレベルで体系的に学ぶプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。高度副プログラムより修了要件単位数が多い。	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を体系的に学ぶプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。副専攻プログラムより修了要件単位数が少ない。
履修対象者	大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)	大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く) 一部プログラムは6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5, 6年次学生 ^{※2}
修了要件	14単位以上 ^{※3}	8単位以上 ^{※3}
提供プログラム数	4プログラム(平成25年度)	45プログラム(平成25年度)

(※2) 以下の解説文中では、大学院学生を想定し、「研究科・専攻」「修了」という文言を使用しています。「大学院等高度副プログラム」の一部のプログラムは6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5, 6年次を対象にしている場合がありますので、その場合は、「研究科・専攻」を「学部・学科」に、「修了」を「卒業」に読み替えてください。

(※3) あくまで制度上の最低単位です。実際は、プログラム毎に設定が異なり、この条件より要件が多く設定されていたり、必修科目があったりする場合があります。必ず各プログラムの紹介を参照してください。

(3) プログラム履修開始から修了までの流れの例【図2】



2 履修対象者・履修条件等について

プログラムを履修することができる者、条件の概要を解説します。

(1) 履修対象者

大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く）

高度副プログラムの一部は、6年制課程の学部（医学部・歯学部・薬学部）5、6年次学生を含む。

(2) 履修条件

大阪大学大学院の課程（高度副プログラムの一部のプログラムは6年制課程の学部5、6年次（医学部・歯学部・薬学部））に在学していることが必要です。その他、プログラム毎に履修条件や履修者数の制限を設けている場合がありますので、個々のプログラムの説明を参照してください。履修制限のないプログラムについては、所属する研究科・学年を問わず履修することができます。

なお、複数のプログラムを同時に履修することも可能です。

ただし、「博士前期課程・修士課程」、「博士後期課程・博士課程」及び「6年制課程の学部5、6年次（医学部・歯学部・薬学部）」とでは、履修できるプログラムが異なりますので、詳細はプログラム一覧（P13・P25～P27）で確認してください。

(3) 費用

プログラムを履修することに対しては特別な費用はかかりません。ただし、プログラムの科目によっては、授業を受ける際に交通費などの実費がかかることがあります。

3 各プログラムのカリキュラム内容について

プログラムのカリキュラムの成り立ちや修了の方法について解説します。

(1) プログラムのカリキュラムについて

各プログラムのカリキュラムは、プログラム実施部局及び連携部局^{※4}が企画し、プログラム科目や修了要件単位数を決めています。原則、プログラム科目は、プログラム実施部局や連携部局等で開講する授業科目から構成されています。

本冊子ではプログラムの概要と構成科目を紹介していますが、科目の内容については、各プログラムが発行する冊子等を参照するかK O A Nのシラバスを検索してください。

(※4) プログラム実施部局とは、副専攻プログラム・高度副プログラムを企画し、開講するプログラムに対して責任を持つ研究科等の組織をいい、連携部局とは複数の研究科等の組織が連携して1つのプログラムを開講する場合の実施部局以外の部局をいいます。それぞれのプログラムの連携部局がこういった役割を担うかはプログラムによって違います。

(2) プログラムの修了要件の満たし方について

修了要件はプログラム毎に違い、本冊子には、プログラムの修了に必要な最低単位数を記載していますが、プログラムによっては必修科目を設けたり、コースを選択したりするなど、条件に違いがあります。詳細については、各プログラムの紹介冊子等で確認してください。

なお、プログラムの修了に必要な単位と所属している研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます（当該プログラムの単位が、専攻の修了に必要な単位として認められるかどうかは、所属する研究科の教務担当係に確認してください）。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、副専攻プログラムの場合は最低7単位、高度副プログラムの場合は4単位を当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。^{※5}

また、複数のプログラムを履修する場合は、それぞれのプログラムの修了に必要な単位の重複は認められます。

(※5) 単位の修得方法の詳細は、補足事項（P. 7）にて解説しているので必ず参照してください。

(3) プログラムの授業科目の開講期間について

プログラムの提供する授業科目の開講は、プログラムを履修している当該学生の課程の標準修業年限内は保証されますが、それ以降はカリキュラムの変更等の理由で開講されない場合がありますのでご注意ください。

4 プログラム申請等に関する手続について

プログラムの申請、プログラム科目の履修について解説します。

(1) プログラム受講開始時の手続について

プログラムを受講するには、「プログラムの申請」と「プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）」の両方を行う必要があります。

例えば、P.1の【図1】で、学生が副専攻プログラム「Aプログラム」の内容を学びたいと考えたとします。プログラムの履修を開始するには、一般的に、①「Aプログラム」が定める申請手続を行い、②KOANで「Aプログラム」の構成科目a～hについて履修登録を行うことになります。

プログラムの申請は、Web（学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム）を使用して行うプログラムと申請書の提出にて行うプログラムがあります。Webによる申請については、各学期の始めにKOAN掲示板にて、申請書の提出による申請については、各プログラムが発行する冊子やホームページにてお知らせします。

プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）は、学期毎にKOANを使用して当該学期に履修する授業科目について、所属する研究科で設定している履修登録期間内に行ってください。

その他、プログラムによっては、KOANの履修登録以外に年度当初又は学期毎に、履修するプログラム科目の申請が必要な場合もあります。各プログラムの指示に従ってください。

(2) プログラム及びプログラム科目に関わる通知について

プログラムは、実施部局あるいは連携部局により運営されていますので、それぞれから通知があることがあります。一方、プログラム科目は、いずれかの部局で開講されている科目ですので、原則、開講部局より通知があります。

これらのプログラムに関する通知や、プログラム科目の授業運営に関する通知（休講、課題等）の連絡は、原則、KOANの広報システム（掲示板等）により行います。ただし、プログラムによってはメールやホームページを使用する場合がありますので、各プログラムの指示に従ってください。

(3) プログラムの修了について

プログラムの修了に必要な条件を全て満たすと、所属研究科の課程を修了するとき（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）にプログラムの修了認定証を授与します。修了認定証の交付は、所属する研究科の教務担当係より行われます。

(4) プログラムの内容に関する問い合わせについて

その他、プログラムについて質問や連絡することがありましたら、プログラム実施部局におかれている担当事務室にお尋ねください。

5 プログラム選択の支援について

数多くあるプログラムの中からどれを選択すればよいかについて、各種ガイドを用意しています。

(1) 各プログラムの合同ガイダンスについて

各プログラムについて、下記のとおり合同のガイダンス^{※6}を行います。

合同ガイダンスでは、各プログラムについて説明を行い、質問に答えますので、受講選択に役立つ情報が得られます。

【副専攻プログラム・高度副プログラム合同ガイダンス】

(吹田キャンパス) 平成25年4月10日(水) 12時～15時

理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階)

(豊中キャンパス) 平成25年4月12日(金) 12時～15時

総合図書館 図書館ホール(6階)

(※6) 合同ガイダンスには全プログラムが参加するわけではありません。独自の説明会を実施するプログラムもあります。詳細はP11以降を参照のこと。

(2) 「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム(Web)」について

様々なプログラムの中から、学びたい「知」や将来の進路等、希望に合ったプログラムや授業科目をガイドし、プログラムの受講申請を行う機能を持ったWebシステムとして、「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム(<https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/>)」があります。本システムでプログラム構成科目の時間割やシラバスを参照・比較することができ、履修計画を立てることができます。

なお、本システムへは直接URLアドレス入力の外、下記サイトからリンクしています。

①KOANトップページ<左メニュー>

②大阪大学ポータルサイト「マイハンダイ」<トップページの「大阪大学Webサービスリンク集」>

③学際融合教育研究センターHP(<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/>)の<「受講申込み」リンク>

(3) その他の広報活動について

大阪大学ホームページの「教育・研究活動」→「副専攻的な教育」の中に「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」についてのページを設けてあります。各プログラムのホームページへもリンクしています。

アドレス(<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/fukusenkou>)

EX 補足事項

各解説事項について補足します。

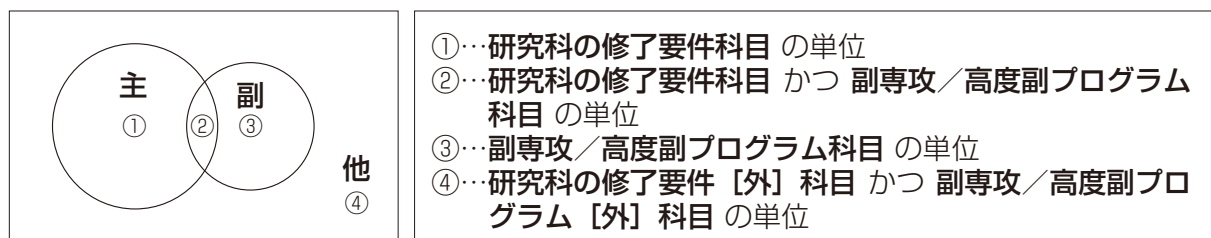
(1) 単位修得方法の注意点

「副専攻プログラム」「高度副プログラム」は、所属研究科・専攻以外の内容や主専攻の専門性を生かすための関連分野を学ぶプログラムです。よって、プログラムの要件単位数を満たしても、所属研究科・専攻の修了要件単位と重複する（内数として利用される）単位のみでは同プログラムを修了したと認定されず、【制度上の最低修得単位数の半数（「副専攻プログラム」は7単位、「高度副プログラム」は4単位）】は、当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。すなわち、【制度上の最低修得単位数の半数】は、研究科・専攻の修了要件ではない単位、あるいは修了要件単位となる科目で、修了のために利用する単位数以上の余分に追加された単位である必要があります。

なお、「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」の所属研究科・専攻以外の構成科目でも、同研究科が規定する申請を行うことにより、修了要件単位に算入することができる場合がありますが、当該科目を修了要件の内数として利用する場合は、それ以外に単位の上乗せが必要となる場合があることに注意が必要です。

図解例

修得した単位を下記の区分①～④に分けた場合、



研究科の修了要件単位数を「(A) 単位」とすると、以下の3つの条件をすべて満たすことが必要です。

- **条件1**：副専攻／高度副プログラムの修了要件単位を満たすこと。
- **条件2**：副専攻プログラム『①+②+③ $\geq$ (A) + 7』
／高度副プログラム『①+②+③ $\geq$ (A) + 4』を満たすこと。

(例、副専攻プログラムを申請し、博士前期課程で(A) = 30の場合、「37単位以上」)

副専攻／高度副プログラム科目の単位と、所属している研究科の修了要件単位との重複は認められるが、研究科の修了に必要な最低修得単位数以外に**最低7単位／最低4単位は、研究科の修了要件ではない当該副専攻／高度副プログラムの単位を修得することが必要。**

- **条件3**：大学院を修了すること。
(修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。)

実際の履修例

所属研究科の修了要件単位（）が**30単位**であり、
申請した「高度副プログラム」の修了要件単位数（）が**8単位**^{※7}の場合

ケース1

研究科修了要件の単位をプログラム修了要件とは別に修得している場合



→研究科を修了し、プログラムも**修了可能**である。

なお、 **③ 8単位** は、研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース2

研究科修了要件とプログラム修了要件で、4単位が重複する場合

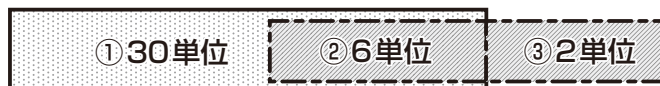


→研究科を修了し、プログラムも**修了可能**である。

なお、 **③ 4単位** は、研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース3

研究科修了要件とプログラム修了要件で、6単位が重複する場合



→研究科を修了できるが、プログラムは**修了不可**である。

この場合、上図の状態からさらに  **③ 2単位** を追加することが必要。

同単位は研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース4

研究科修了要件とプログラム修了要件で、8単位が重複する場合



→研究科を修了できるが、プログラムは**修了不可**である。

この場合、上図の状態からさらに  **③ 4単位** を追加することが必要。

同単位は研究科の修了要件となる科目でも可。

（※7）「副専攻プログラム」の場合、14単位と想定され、最低7単位の余剰が必要となります。

(2) プログラム申請前の修得単位の扱いについて

プログラムで定める授業科目をプログラムの申請以前に履修している場合は、既に修得している単位がプログラムの修了要件単位として認定されることがあります。詳細については各プログラム実施部局に問い合わせてください。

(3) プログラムを修了しないで研究科を修了した場合の科目の取り扱いについて

履修中のプログラムを修了せず大学院を修了又は退学し、当該プログラムの修得単位がある場合は、社会人対象の「科目等履修生高度プログラム^{※8}」を履修する際に、当該単位を新たに履修する「科目等履修生高度プログラム」の既修得単位として認定することができる場合があります。詳細については各プログラム実施部局に問い合わせてください。**(ただし、新たに履修する「科目等履修生高度プログラム」において、修了しなかったプログラム修得単位の科目と共通する科目がある場合に限ります。)**

「※8）「科目等履修生高度プログラム」は、外部の社会人に対して開放されている学校教育法に定められた履修証明制度に基づくプログラムです。一部のプログラムは、「副専攻プログラム」「高度副プログラム」と重複する内容を扱っている場合があります。

平成 25 年度 各プログラム個別解説 (副専攻プログラム)

※この冊子に掲載されているプログラムは、平成25年度に募集を行っているプログラムの情報を掲載しています。
平成26年度以降に新たにプログラムの申請を行う場合は、当該年度発行の冊子をご覧ください。

平成25年度 副専攻プログラム及び説明会予定一覧

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修 対象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 10 吹田	4 / 12 豊中		
1	アントレプレナーシップ (アドバンスト・プログラム)	経済学研究科	M・D	○	○		14
2	公共圏における 科学技術政策	コミュニケーション デザイン・センター	M・D	○	○	4 / 10 実施予定 あり	16
3	金融・保険	金融・保険教育研究 センター	M・D	○	○		18
4	ナノサイエンス・ナノテ クノロジー高度学際教育 研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教 育副専攻プログラム)	ナノサイエンス デザイン教育研究 センター	M	○	○	4 / 9・ 11・16 実施予定 あり	20

※履修対象者

M…博士前期課程・修士課程・生命機能研究科の博士課程1、2年次・法科大学院の課程

D…博士後期課程・博士課程・生命機能研究科の博士課程3年次以上

プログラム名称	アントレプレナーシップ（アドバンスト・プログラム）	
プログラム実施部局	経済学研究科	
連携部局	工学研究科、国際公共政策研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 及び 博士	
プログラム概要 及び教育目標	グローバル化やICT化等の進展などによる社会構造の変化に伴い、自らのアイデアや技術をもとに起業し、自らの手でビジネスを展開するというアントレプレナーの社会からの需要が高まっています。アントレプレナーは、リスクを取りながら革新的なアイデアや技術をもとに新たなビジネスを起して社会に提供し、産業構造や人々のライフスタイルの変化を創出していきます。 革新的な技術をもとにしたテクノロジービジネスを行うアントレプレナーに加え、ビジネスの手法で社会的課題解決を図る社会起業家やNPOや国際NGOなどの非営利組織において革新的な手法で被災者支援や途上国援助を行う人など多様なアントレプレナーが活躍しています。また、企業や団体などの組織の中でも新しいアイデアで新規事業を立ち上げていける人材が求められています。本プログラムでは起業マインドを身につけ、起業の基礎を学ぶことに加えて、多様なアントレプレナーのあり方を理解しアントレプレナーとなるための実践的な知識を身につけます。 【教育目標】 ①起業を巡る環境を理解する ②起業プロセスの基礎を学ぶ ③実際に起業する際に必要な実践的な知識を身につける ④起業マインドを涵養する ⑤多様なアントレプレナーのあり方を学ぶ	
履修資格・条件	特になし。全学からの参加を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。	
修了要件	14単位以上	本プログラムの科目から必修科目2単位を含む14単位以上を修得することとします。
ホームページ・問い合わせ先等	HP： http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/ https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/ 学際融合教育研究センター 事務室（06-6850-6652、zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp） 担当教員 中西 浩（06-6850-6209、nakanishi@idiscp.osaka-u.ac.jp） 担当教員 松行 輝昌（06-6850-6985、tma@idiscp.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	・本副プログラムの受講申請は、受講ガイダンスシステム（https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）から行うこと。 ・同一内容の科目を複数履修することはできません。自分の所属する課程（前期課程・後期課程）に対応する科目を履修してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232071	企業家活動	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	夏期集中
237249	企業家活動特研	2		1 学期	経済学研究科（博士後期）	夏期集中 232071 と同一
232114	ベンチャービジネス 創成		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232072	ビジネスモデル論		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237235	ビジネスモデル論特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232072 と同一
232003 280667	アカウンティング／ ファイナンス		2	1 学期	経済学研究科／工学研究科 （博士前期）	
280645 232167	知的財産権		2	1 学期	工学研究科／経済学研究科 （博士前期）	
232021	マーケティング・ サイエンス		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237231	マーケティング・ サイエンス特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232021 と同一
310271	非営利組織論		2	通 年	国際公共政策研究科 （博士前期）	
232054	企業分析と評価		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237239	企業分析と評価特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232054 と同一
280643 232166	技術知マネジメント論		2	1 学期	工学研究科／経済学研究科 （博士前期）	
720201	グローバルコラボレー ションの理論と実践		2	1 学期	グローバルコラボレーショ ンセンター（博士前期・後期）	

プログラム名称	公共圏における科学技術政策	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター	
連携部局	国際公共政策研究科、人間科学研究科、医学系研究科、工学研究科、基礎工学研究科、法学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そのためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。 この認識のもと本プログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。 なお、本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」の基盤的研究・人材育成拠点を担うものとして実施されます。 【教育目標】 自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。	
履修資格・条件	選考の上、受講生を決定します。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	14単位以上	必修科目：6単位、選択科目：8単位以上。選択科目①（基軸科目群）および②（イシュー科目群）から、それぞれ2単位以上を選択
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/learn/gmp/stips.php 全学教育推進機構等事務部 大学院係 E-mail: stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会 （豊中）平成25年4月10日（水）18:00～19:00 全学教育推進機構学生コモンズ（2階）セミナー室2 ■合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	- 履修希望者は、上記日時で開催予定の副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会を受講してください。 - 履修希望者は、下記の期日までにメールにて申請書類を提出ください。申請書類は、上記の説明会で案内するほか、上記ホームページより入手してください。 日 時：4月17日（水）17:00締切 提出先： stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp - 面接日程は、下記の通りです。 日 時：4月24日（水）16:20～19:30の間 場 所：全学教育推進機構 全学教育総合棟I（4階） コミュニケーションデザイン・センター（CSCD） 444ミーティングルーム	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360130	科学技術イノベーション政策概論	2		1 学期	CSCD（院）	
360419	科学技術イノベーション政策特別演習	2		1 学期	CSCD（院）	
360601	研究プロジェクト	2		通 年	CSCD（院）	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2 2	1 学期 2 学期	CSCD（院）	①
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	CSCD（院）	①
211686	社会における科学技術特定演習		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	①
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	①
360602	科学技術イノベーション政策総合演習		2	1 学期	CSCD（院）	①
310402	公共政策Ⅰ		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	①
310571	環境法		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310655	特殊研究（環境法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	②
290704	ナノテクノロジー社会受容特論A		1	1 学期	基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	②
250520	ライフサイエンスの倫理と公共政策		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	②
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310779	特殊研究（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
220515	総合演習（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	②
221407	特定研究（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	③
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	CSCD（院）	②
311310	特殊講義（人事マイクロデータ分析1）		2	通 年	国際公共政策研究科（博士前期）	②
311324	特殊研究（人事マイクロデータ分析3）		2	通 年	国際公共政策研究科（博士後期）	②

プログラム名称	金融・保険	
プログラム実施部局	金融・保険教育研究センター	
連携部局	基礎工学研究科，経済学研究科，理学研究科，情報科学研究科	
履修対象者	スタンダード・プログラム：修士 及び 博士 アドバンスト・プログラム：博士	
プログラム概要 及び教育目標	文部科学省特別教育研究経費（連携融合）に採択された“新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発”の実施母体として，2006年4月に発足した大阪大学金融・保険教育研究センター（CSFI）が，金融・保険に関わる学際的分野でのスペシャリストを育成することを目標とし提供するプログラムです。 この文理融合型教育プログラムは，学内の設立母体である基礎工学，経済学，理学，情報科学研究科の4研究科と，民間および公的金融機関の連携協力のもとに提供され，(M) 数理計量ファイナンスコース，(E) 金融経済・工学コース，(I) インシュアランス・コースの3コースで構成されています。さらに履修者のレベルにあわせて，各コースは，博士前期・修士課程レベルに対応する[S] スタンダード・プログラムと博士後期課程レベルに対応する[A] アドバンスト・プログラムに分かれています。また最先端の学術的発展をも踏まえた教育に加え，実務家教員による実務教育にも力を入れています。	
履修資格・条件	平成23年度以降の入学・進学者のみを対象とします。	
前提知識の要否・目安	提供科目ごとに異なりますので，シラバスで御確認下さい。	
修了要件	8科目以上（16単位相当以上）	スタンダード・プログラム：必修科目をすべて含み，基礎科目2科目以上，専門科目4科目以上，計8科目以上。 アドバンスト・プログラム：特別科目6科目以上，計8科目以上
	上記の3つのコースごとに，各科目を，基礎科目，専門科目，特別科目に分類しており，2種プログラムの修了要件はそれぞれ上記の通りです。各コースの科目の分類については，CSFIの教育プログラム便覧〔科目対応時間割表，シラバスを含む〕を御覧下さい。	
ホームページ・問い合わせ先等	宛 先：大阪大学 金融・保険教育研究センター（CSFI） 所在地：〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3 Phone：(06) 6850-6091 Fax：(06) 6850-6092 ホームページ：www-csfi.sigmath.es.osaka-u.ac.jp E-mail：csfi-questions@sigmath.es.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	平成25年度の説明会・オリエンテーションを4月8日（月），午後6時より，豊中キャンパス，法経講義棟，1階第1講義室にて開催する予定です。 合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	1・2学期とも，エントリー・出願，履修登録は所定の期間内にKOANによって受付けます。その際，CSFI作成の冊子（パンフレット，教育プログラム便覧〔科目対応時間割表，シラバスを含む〕）および上記ホームページに重要な情報が掲載されていますので，御参考になって下さい。また，休講・補講，集中講義の日程，等の最新の情報につきましても，ホームページに御注意下さい。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
金融・保険教育研究センター作成の冊子（パンフレット，教育プログラム便覧 [科目対応時間割表，シラバスを含む]）および左記ホームページを参照.						

プログラム名称	「ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育副専攻プログラム)」 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程副専攻)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学大学院の各部局で従来個別に実施してきた学際性の極めて強いナノサイエンス・ナノテクノロジーに関連する大学院講義を部局横断型に再編統合し、独自の講義・実習・討論科目を付加して、複数の高度学際教育プログラムを編成してあります。これらの高度学際教育プログラムの履修により、従来の専門領域に加えてナノサイエンス・ナノテクノロジーの体系化された幅広い知識と、その社会・産業への展開方法を修得させ、よって有能なナノ関連分野の基礎研究開発能力を持つ人材の育成を目的とします。 カリキュラム構成は、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関わる学生が広く聴講すべき講義群を、5つのコースに分類して、これに社会におけるナノテクノロジーの活用実例や実用化における課題を講義するナノテクキャリアアップ特論（必修科目、吹田・豊中遠隔中継）、社会普及、標準化、ナノリスクを説くナノテクノロジー社会受容特論A（必修科目、土曜開講、吹田・豊中・中之島遠隔中継）、各種産業発展のロードマップを用いた要素技術の解説と自分の専門に対するケーススタディーを行うナノテクノロジーデザイン特論A/B（1科目選択必修、土曜開講、吹田・豊中・中之島遠隔中継）を加えて、将来ナノサイエンス・ナノテクノロジー関連分野へ進む全学の学生に対して副専攻プログラムを提供します。このプログラムでは講義のみならず、主に夏期集中で部局横断的な演習、実験を含めた高度実習訓練（約30課題）を行うことと、社会人を含めた討論重視の土曜講座への参加を特徴としています。 大学院博士前期課程副専攻の高度学際教育副専攻プログラムとして、以下の5つのコースを平成25年度に実施します。 ① ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ② ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③ 超分子ナノバイオプロセス学 ④ ナノ構造・機能計測解析学 ⑤ ナノフォトニクス学	
履修資格・条件	なし	
前提知識の要否・目安	一般に理工系の学部レベルの知識を要します。	
修了要件	14単位以上	本プログラム修了認定には、1つのプログラムの中から講義科目13単位（うち所属の専攻又は領域の授業科目にない講義科目7単位以上を含む）、および集中実習科目1単位以上を修得することが必要です。ただし、修得した単位（「ナノテクキャリアアップ特論」、「ナノテクノロジー社会受容特論A」、「ナノテクノロジーデザイン特論AまたはB」、いずれかの「集中実習科目」は必修科目）のうち最低7単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行って下さい。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載して下さい。 ナノプログラム事務局：豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室（G104） メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線(6398)	
説明会の日程	「ナノサイエンスデザイン教育研究センター プログラム説明会」 【吹田】H25.4. 9（火）12:10～12:50 工学研究科U3-311（U3棟3階） 【豊中】H25.4.11（木）12:10～12:50 基礎工学研究科G508（G棟5階） 【豊中】H25.4.16（火）12:10～12:50 理学研究科G103（G棟1階 塩見記念室） 「高度副プログラム・副専攻プログラム合同ガイダンス2013」 【吹田】H25.4.10（水）12:00～15:00 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及びギャラリーゾーン(2階) 【豊中】H25.4.12(金)12:00～15:00 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	本副専攻プログラムを申請する学生は、同時に高度副プログラム【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程)】も申請することを推奨します。これは単位不足の場合でも副プログラム（9単位）の修了は可能な場合があるからです。 【重要】 授業科目名欄に（※）印のある授業科目は平成25年度のみ開講が確定しており、平成26年度以降の継続開講については未定のため、本プログラムを確実に修了するためには、これらの科目は平成25年度内に単位取得すること。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290627	ナノテクキャリアアップ特論（※）	2		1 学期	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290704	ナノテクノロジー社会受容特論A （※）	1		集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290705	ナノテクノロジーデザイン特論A		2 *	不開講	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	* Aまたは Bは選択必修
290706	ナノテクノロジーデザイン特論B （※）		2 *	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						全14科目
290433	理論物質科学		2	1 学期	基礎工学研究科 （博士前期）	他12科目
241256	ナノマテリアル・ナノデバイス デザイン学	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						全27科目
280783	材料設計論		2	2 学期	工学研究科 （博士前期）	他25科目
240928	ナノプロセス・物性・デバイス 学（※）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
③超分子ナノバイオプロセス学						全30科目
271020	細胞生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（修士）	
250002	人体形態機能学概論		3	1 学期	医学系研究科（修士）	他27科目
240929	超分子ナノバイオプロセス学 （※）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
④ナノ構造・機能計測解析学						全17科目
320001	基礎物理学Ⅰ		2	通 年	生命機能研究科	他15科目
240930	ナノ構造・機能計測解析学（※）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
⑤ナノフォトニクス学						全18科目
280206	光量子工学		2	1 学期	工学研究科 （博士前期）	他16科目
240931	ナノフォトニクス学（※）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習

表中の「他科目」については、ナノサイエンスデザイン教育研究センターの発行する案内冊子を確認してください。

平成 25 年度 各プログラム個別解説 (高度副プログラム)

※この冊子に掲載されているプログラムは、平成25年度に募集を行っているプログラムの情報を掲載しています。
平成26年度以降に新たにプログラムの申請を行う場合は、当該年度発行の冊子をご覧ください。

平成25年度 高度副プログラム及び説明会予定一覧

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修対 象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 10 吹田	4 / 12 豊中		
1	アート・メディオロジー入門 講座ー理論と実践	文学研究科	M (Dも可)	○	○		28
2	グローバル化とコンフリクト ー人間科学的アプローチ	人間科学研究科	M	○	○		30
3	医療通訳	人間科学研究科	M・D	○	○		32
4	持続可能な日本の進路を考え るー成熟期を経た省資源・少 子高齢化の日本の安心安全な 進路のデザイナーー	法学研究科	M・D	○	○		34
5	イノベーションリーダー人材 育成基礎プログラム	経済学研究科	M・D				36
6	アントレプレナーシップ (スタンダード・プログラム)	経済学研究科	M・D	○	○		38
7	基礎理学計測学	理学研究科	M・D	○	○		40
8	放射線科学	理学研究科	M・D	○	○		42
9	健康医療問題解決能力の涵養	医学系研究科 (医科学専攻)	M・D				44
10	高度がん医療人材育成プログ ラム	医学系研究科 (保健学専攻)	M・D	○	○		46
11	まちづくりデザイン学	工学研究科	M	○	○	4 / 5 実施予定あり	48
12	高度溶接技術者プログラム	工学研究科	M・D	○	○	実施予定あり	50
13	学際光科学	工学研究科	M・D	○	○		52
14	キャリアデザイン ～高度な 学びを活かすキャリアパスを デザインする～	工学研究科	M・D	○	○		54
15	国際標準化	工学研究科	M・D	○	○		56
16	量子エンジニアリングデザイ ン研究特別プログラム	工学研究科	M・D	○	○		58
17	言語情報処理の手法と展開	言語文化研究科	M・D				60
18	文化と植民地主義	言語文化研究科	M・D			4 / 11 実施予定あり	62
19	グローバルリーダーシップ・ プログラム	国際公共政策研 究科	M・D	○	○		64
20	科学技術文明における公共倫理 とソーシャルイノベーション	国際公共政策研 究科	M・D	○	○		66
21	国際協力活動における公共倫理 とソーシャルイノベーション	国際公共政策研 究科	M・D	○	○		68
22	東南アジアにおける平和と人 間の安全保障	国際公共政策研 究科	M・D	○	○		70

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修対 象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 10 吹田	4 / 12 豊中		
23	ソフトウェアイノベーション 先導 [組込みシステム・コース]	情報科学研究科	M	○		4 / 5 実施予定あり	72
24	大規模適応設計プログラム	情報科学研究科	M			4 / 5 実施予定あり	74
25	感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所	D	○	○	4 / 9 実施予定あり	76
26	インターカルチュラル・コ ミュニケーションの理論と実 践	国際教育交流セ ンター	M・D	○			78
27	臨床医工学・情報学融合領域 の人材育成教育プログラム： 専門科	臨床医工学融合 研究教育センター	M・D	○	○	4 / 9・11 実施予定 あり	80
28	臨床医工学・情報学融合領域 の人材育成教育プログラム： 高度職業人育成科	臨床医工学融合 研究教育センター	M・D	○	○	4 / 9・11 実施予定 あり	82
29	コミュニケーションデザイン	コミュニケーション デザイン・センター	B5、6 ・M・D	○	○		84
30	公共圏における科学技術政策	コミュニケーション デザイン・センター	M・D	○	○		86
31	金融・保険	金融・保険教育 研究センター	M・D	○	○		88
32	ソフトウェアイノベーション 先導 [ファイナンス・ソフト ウェア・コース]	金融・保険教育 研究センター	M・D	○	○		90
33	グローバル共生	グローバルコラ ボレーションセンター	B5、6 ・M・D	○	○		92
34	人間の安全保障と開発	グローバルコラ ボレーションセンター	B5、6 ・M・D	○	○		94
35	司法通訳翻訳	グローバルコラ ボレーションセンター	B5、6 ・M・D	○	○		96
36	現代中国研究	グローバルコラ ボレーションセンター	M・D	○	○		98
37	国連政策エキスパートの養成	グローバルコラ ボレーションセンター	M・D	○	○		100
38	グローバル健康環境	グローバルコラ ボレーションセンター	B5、6 ・M・D	○	○		102
39	東アジアの地域環境	グローバルコラ ボレーションセンター	B5、6 ・M・D	○	○		104
40	環境イノベーションデザイン 学	環境イノベーション デザインセンター	M・D	○	○	4 / 5 実施予定あり	106

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修対 象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 10 吹田	4 / 12 豊中		
41	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士前期課程高度学際教育)	ナノサイエンス デザイン教育研 究センター	M	○	○	4 / 9・11・16 実施予定あり	108
42	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士後期課程社会人特別選抜)	ナノサイエンス デザイン教育研 究センター	D	○	○	3 / 29 実施予定あり	110
43	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士後期課程教育研究訓練プログラム)	ナノサイエンス デザイン教育研 究センター	D	○	○	4月下旬 実施予定あり	112
44	知的財産法を修得した人材育成	知的財産センター	M・D	○	○	4 / 1 実施予定あり	114
45	産学連携開講講座 実学主義 ～企業の視点から 科学する～	産学連携本部	M・D	○	○	実施予定あり	116

※履修対象者

B5、6…6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5、6年次

M…博士前期課程・修士課程・生命機能研究科の博士課程1、2年次・法科大学院の課程

D…博士後期課程・博士課程・生命機能研究科の博士課程3年次以上

プログラム名称	アート・メディアロジー入門講座——理論と実践	
プログラム実施部局	文学研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士（博士も可）	
プログラム概要 及び教育目標	「アート・メディアロジー入門講座——理論と実践」は、現代社会でアートによるプロジェクトを計画し、社会的実践に結び付けて行くスペシャリストを育成するプログラムです。アートが現代社会の諸局面で活用される機会は増えてきていますが、アートの社会的機能についての根本的な理解なしには継続的で影響力のある実践はできません。アートを社会に生かし、社会に根付いたものにするためにはただ単に実践出来るだけではなく、アートについてその必要性を社会的に説明できることも重要です。このプログラムは、そのような現代社会の多ジャンルにまたがるアートのメディアとしての役割、現代社会における意義、未来への展望について理論的歴史的に理解を深めるとともに、インターンシップや実践的なプロジェクトに参加することで具体的なアート・プロジェクトの過程を学びます。 【教育目標】 - メディアとしての各アートにおける基礎的知識の習得 - アートを媒介にする社会的実践能力の育成 - 地域社会とアートを結び付けるデザイン力の涵養	
履修資格・条件	受講資格・条件は、特にありません。 このプログラムは、博士前期（修士）課程のプログラムですが、博士後期課程の学生も受講することができます。	
前提知識の要否・目安	——	
修了要件	8単位以上	1年以内に8単位を修得してください。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.let.osaka-u.ac.jp/ 問い合わせ先：文学研究科教務係 Email: bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	本プログラムは1年間のプログラムです。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
20C201	アートメディア史講義	2		1 学期	文学研究科（修士）	
20C205	メディア文化論講義		2	1 学期	文学研究科（修士）	
20C211	芸術環境論講義		2	1 学期	文学研究科（修士）	
20C207	映像メディア論講義		2	1 学期	文学研究科（修士）	
20C213	アート・プロデュース論演習		2	1 学期	文学研究科（修士）	
20C216	メディア論B 演習		2	2 学期	文学研究科（修士）	
20C222	文化政策論演習		2	2 学期	文学研究科（修士）	
20C210	実践芸術論演習		2	2 学期	文学研究科（修士）	

プログラム名称	グローバル化とコンフリクト——人間科学的アプローチ	
プログラム実施部局	人間科学研究科	
連携部局	文学研究科、国際公共政策研究科、グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	グローバル化する現代世界では、さまざまなコンフリクト（紛争、摩擦、葛藤）が生じています。これは、先進国と発展途上国、洋の東西南北を問わない、まさにグローバルな現象であり、日本に暮らす私たちにとっても現実的な問題です。私たちは、グローバル化とコンフリクトの因果関係を探求するとともに、個別のコンフリクトが生じるナショナルおよびローカルな文脈を見極める必要があります。言い換えれば、本課題を解明するには、普遍と特殊、全体と個別のあいだを縦横に往復しつつ、考察を深めていかねばなりません。それによってコンフリクトを解決あるいは軽減するための道筋も見えてくるはずです。本プログラムは、人類学を中心としつつ関連する諸学問分野の科目の履修を通じて、グローバル化とコンフリクトという課題を総合的かつ専門的に理解し対処する能力を養うことを目的としています。 なお、本プログラムは、21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」およびグローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」の成果を大学院博士前期課程の教育に還元し、継承発展させるために構想されたものです。	
履修資格・条件	とくに資格や条件はありません。理系・文系を問わず、全学からの参加を歓迎します。とくに、グローバル化、ナショナリズム、民族紛争、開発・人道援助、貧困、移民・難民、文化摩擦などの課題に関心のある学生向きのプログラムです。	
前提知識の要否・目安	とくに前提知識は必要としない。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ・問い合わせ先等	人間科学研究科人類学研究室（内線8085）	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
211231	人間と文化特講	2		集 中	人間科学研究科（博士前期）	
211631	コンフリクトの人文特講Ⅰ	2		1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211632	コンフリクトの人文特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216008	紛争復興開発論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211200	ジェンダー論特講		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	
211708	セクシュアリティと教育特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	英語
219271	ジェンダー教育学特講（B）		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	英語
211199	家族社会学特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211234	政治経済の人類学特講		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	
211223	比較思想史特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211222	比較文明学特講		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	
216003	国際協力学特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	英語
216001	人間開発学特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
20C419	言語接触論Ⅰ 講義		2	1 学期	文学研究科（修士）	
311164	特殊講義 （紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311259	特殊講義（アフリカの政治と紛争） （African politics and conflict）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	英語
720101	人間の安全保障論		2	1 学期	GLOCOL（院）	英語
720201	グローバルコラボレーションの 理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720104	フィールドワークの実践と倫理		1	1 学期	GLOCOL（院）	
360133	医療人類学		2	1 学期	CSCD（院）	

プログラム名称	医療通訳	
プログラム実施部局	人間科学研究科	
連携部局	医学系研究科、薬学研究科、言語文化研究科、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	外国人登録者は約200万人を越し、海外から日本に入国する外国人旅行者も増えています。外国人に対する診療の必要性が高まり、外来および入院病棟での病歴、主訴、診断告知、治療方針などの正確な説明や、手術やガン告知などのインフォームド・コンセントなど、医療現場におけるプロフェッショナルな通訳者に対するニーズは急激に増大しています。日本語のできない外国人に対して、日本人と同水準の医療を提供するためには、保健医療分野に造詣の深い通訳者の専門性が求められています。 本プログラムでは、①医療通訳を行うための基本的な保健医療知識を学び、②医療通訳の実践のための言語とコミュニケーションの技術を身につけ、③医療通訳士の役割や倫理について理解することをめざしています。 カリキュラムとしては、医療通訳に関する理論と実践活動の概論を選択必修科目とし、受講者の関心に応じて、言語とコミュニケーションの技術、基本的な保健医療知識が習得できます。	
履修資格・条件	受講資格・条件は特にありません。日本語と通訳対象となる言語に関して高度な運用能力のある人、あるいは、日本人の保健医療関係者、外国人の保健医療関係者など、医療通訳に関心のある方を歓迎します。また、病院やNGOなどにおける医療通訳コーディネーターの方などの受講も想定しています。	
前提知識の要否・目安	特に必要ありません。ただし、言語に関する運用能力、あるいは保健医療に関する基礎的知識のどちらかをもっていることが望ましいです。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目（4単位）と選択必修科目を併せて8単位以上修得することとします。
ホームページ・問い合わせ先等	人間科学研究科 国際協力学研究室（内線8064）	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
216002	国際協力学特講Ⅰ	2		1学期	人間科学研究科（博士前期）	
211642	医療通訳とコミュニ ティ	2		2学期	人間科学研究科（博士前期）	
選択必修科目（これらの科目から4単位以上を選び習得すること）＊						
216154	医療通訳論Ⅰ		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	3科目は 同一科目
216155	医療通訳論Ⅱ		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	
305505	通訳翻訳学特論A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
308093	通訳翻訳学特論A		2	1学期	言語文化研究科（博士後期）	3科目は 同一科目
720203	通訳翻訳学特論A		2	1学期	GLOCOL（院）	
305506	通訳翻訳学特論B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
308094	通訳翻訳学特論B		2	2学期	言語文化研究科（博士後期）	3科目は 同一科目
720204	通訳翻訳学特論B		2	2学期	GLOCOL（院）	
271074	医療薬学特別講義		1	1学期	薬学研究科（博士前期）	
360128	認知症コミュニケー ションA		2	1学期	CSCD（学部・院）	
360224	認知症コミュニケー ションB		2	2学期	CSCD（学部・院）	
360221	身体コミュニケーション		2	2学期	CSCD（学部・院）	
360403	医療対人関係論		2	集 中	CSCD（学部・院）	
360121	臨床コミュニケーション		2	1学期	CSCD（学部・院）	
360122	ヒューマンコミュニ ケーション		2	1学期	CSCD（学部・院）	
255133	がんの病態生理学		2	1学期	医学系研究科（博士前期）	
255134	がんの病態生理学各論		2	2学期	医学系研究科（博士前期）	
250004	臨床医学概論		3	1学期	医学系研究科（修士）	
250005	集団社会医学概論		2	1学期	医学系研究科（修士）	

プログラム名称	持続可能な日本の進路を考える ー成熟期を経た省資源・少子高齢化の日本の安心安全な進路のデザイナーー	
プログラム実施部局	法学研究科	
連携部局	国際公共政策研究科、経済学研究科、工学研究科、 グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 グローバル社会が進展する中、我が国は先進諸国に先駆けて少子高齢化社会に移行し、加えて省資源の国として、様々な社会的課題に直面しています。高度な経済成長は終焉し、私達は持続可能な社会を構築することを求められています。このような時代に、グローバル化が進む世界の中での我が国の位置を的確に把握し、先進諸国を先導するような次世代社会を設計することは喫緊の課題です。 本プログラムでは、日本の社会構造や産業構造の変遷、世界の中の日本の強み・弱みをグローバルな視点から把握・分析し、俯瞰的・大局的な知を修得します。これらをもとに、グループ・ディスカッションを含めて、現代の日本が抱える課題を分析し、それらに対する解決法を構想・議論し、持続可能で安心・安全な日本の進路をデザインします。 【教育目標】 グローバル化社会における、 ①産業や社会の構造の変遷を知る ②平成にいたるまでの及び現在の経済状況と課題を知る ③世界の中の日本の強みと弱みを知る ④持続可能で安心・安全な日本の進路を考え、構想することを教育目標とします。	
履修資格・条件	理系・文系によらず、日本の進路を真剣に考え積極的に受講する態度を持つ大学院生の参加を期待します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ：: http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/ 学際融合教育受講ガイダンスシステム： https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/ 学際融合教育研究センター 教員 中西浩 (06-6850-6209, nakanishi@idiscp.osaka-u.ac.jp) 教員 松行輝昌 (06-6850-6985, tma@idiscp.osaka-u.ac.jp)	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	本副プログラムの受講申請は、学際融合教育受講ガイダンスシステム(https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/)から行うこと。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
220368	国際政治学概論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220313	労働法 I		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220339	社会保障法		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220517	総合演習（日本の進路をデザインする）		2	夏季集中	法学研究科（博士前期）	履修登録に当たっては、注を参照
C50103	日本の進路をデザインする				全学教育推進機構（学際融合教育研究センター）（院）	
310402	公共政策 I		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311162	プロジェクト演習（マスコミと国際公共政策）M		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
230158	比較産業史 I		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
280649 232168	知価社会論		2	2 学期	工学研究科／経済学研究科（博士前期）	
281161	科学技術と社会 ー未来を拓く科学技術を考えるー		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	

注：授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」と「日本の進路をデザインする」の授業内容は同じです。

受講生は、下記を参考にして、どちらの科目を選択するか決めることを勧めます。

1. 法学研究科の学生

①授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」が、自身の修了要件科目となっているかどうか確認

②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、時間割コード 220517 を履修登録してください。

2. 法学研究科以外の学生

①授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」と授業科目「日本の進路をデザインする」の両方あるいはどちらかが、自身の修了要件科目となっているかどうか確認

②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、修了要件科目となっている方を履修登録してください。

③上記①で、修了要件科目となっていない場合

【知のジムナスティクス】となっている科目を選択すると、本副プログラムの修了要件単位となり、かつ【知のジムナスティクス】科目として単位が認定されます。

プログラム名称	イノベーションリーダー人材育成基礎プログラム	
プログラム 実施部局	経済学研究科	
連携部局	医学系研究科，工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	イノベーションスピードが速まり，最先端技術の分散が著しい今日において，関連する技術を束ねて，研究開発を推進する，商品開発を企画する，事業化を模索する，といった組織的活動におけるマネジメントニーズは日増しに高まってきています。高度成長期を経て，一気に成熟期に突入した日本が，今後グローバルに競争優位なポジションを維持するには，最先端技術を融合させた技術開発を実現するイノベーションリーダーの育成が必要不可欠であり，またそうした人材のマネジメント能力を向上させていかなければなりません。 そこで我々経済学研究科では，主に経営学系専攻において開講されている科目を，全学に高度副プログラムとして提供することを通じて，大阪大学におけるイノベーションリーダー育成の基礎を構築したいと考えています。幸い我々は，同名のプログラム名称にて，平成20年度下期から22年度までの2年半にわたって，文部科学省から「大学院教育改革プログラム」の助成を受けており，その素地は整っていると考えています。さらに医学系研究科（MEIセンター）および工学研究科（BE専攻）とも連携を図り，プログラムとしての射程を広げていきます。	
履修資格・条件	主として，理工系・医歯薬系の博士前期・後期課程在籍者，およびそれに相当する学力を有する大学院生	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	10単位以上	本プログラムの科目から必修科目2単位を含む10単位以上を修得することとします。
ホームページ・ 問い合わせ先等	ホームページ：http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/subprograms 連絡先：CMI-Info@econ.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	特になし。	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232073	イノベーション・マネジメント	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232003 280667	アカウンティング／ファイ ナンス		2	1 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	
232040 280671	オペレーションズ・リサー チ／マネジメントサイエ ンス		2	1 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	
232042 280669	ストラテジー／マーケティ ング		2	2 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	
232043 280668	マネジメント・コントロー ル		2	1 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	
	マネジメント・コミュニケー ション		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	不開講
250279	医薬品開発計画論		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251502	医療経済・経営入門		1	2 学期	医学系研究科（修士）	
255129	医療経営学総論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
280645 232167	知的財産権		2	1 学期	工学研究科／経済学研究科 （博士前期）	
280646 232173	知的財産権演習		1	1 学期	工学研究科／経済学研究科 （博士前期）	知的財産権 とセットで 履修のこと。
280647 232169	技術融合論		2	1 学期	工学研究科／経済学研究科 （博士前期）	

プログラム名称	アントレプレナーシップ（スタンダード・プログラム）	
プログラム 実施部局	経済学研究科	
連携部局	工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	グローバル化やICT化等の進展などによる社会構造の変化に伴い、自らのアイデアや技術をもとに起業し、自らの手でビジネスを展開するというアントレプレナーの社会からの需要が高まっています。アントレプレナーは、リスクを取りながら革新的なアイデアや技術をもとに新たなビジネスを起して社会に提供し、産業構造や人々のライフスタイルの変化を創出していきます。また、企業や団体などの組織の中でも新しいアイデアで新規事業を立ち上げていける人材が求められています。本プログラムではアントレプレナーに求められる起業マインドを涵養し、起業の基礎を学びます。 【教育目標】 ① 起業を巡る環境を理解する ② 起業プロセスの基礎を学ぶ ③ 実際に起業する際に必要な基礎知識を身につける ④ 起業マインドを涵養する	
履修資格・条件	特になし。全学からの参加を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から必修科目2単位を含む8単位以上。
ホームページ・ 問い合わせ先等	ホームページ：http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/ 学際融合教育受講ガイダンスシステム： https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/ 学際融合教育研究センター 教員 中西 浩（06-6850-6209, nakanishi@idiscp.osaka-u.ac.jp） 教員 松行輝昌（06-6850-6985, tma@idiscp.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	・ 本副プログラムの受講申請は、受講ガイダンスシステム （https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）から行うこと。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232071	企業家活動	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	夏期集中
237249	企業家活動特研	2		1 学期	経済学研究科（博士後期）	夏期集中 232071 と同一 博士後期対象
232114	ベンチャービジネス創 成		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232072	ビジネスモデル論		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237235	ビジネスモデル論特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232072 と同一 博士後期対象
232003 280667	アカウンティング／ ファイナンス		2	1 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	
232021	マーケティング・ サイエンス		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237231	マーケティング・ サイエンス特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232021 と同一 博士後期対象
232167 280645	知的財産権		2	1 学期	経済学研究科／ 工学研究科（博士前期）	

プログラム名称	基礎理学計測学	
プログラム実施部局	理学研究科	
連携部局	産学連携本部（イノベーション部 e-square）、核物理研究センター、工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	様々な計測機器や分析機器は、物理、化学、生物科学、ライフサイエンス、環境科学など幅広い分野の研究において、必要不可欠なものとして用いられています。しかしながら、近年、装置がブラックボックス化し、その原理をよく理解せずに機器を利用し、得られた結果についての考察や評価を十分に行えないケースが増えてきています。また、他の誰も見たことがないようなモノを見ようとする時には既存の計測機器では不可能な場合がほとんどで、新たに機器を開発することが必要となる場合もあります。このような場合にも、測定原理などをしっかりと理解していることが必須です。 本プログラムでは、「質量分析」、「NMR」、「X線結晶解析」、「放射線計測」、「機器制御」、「分光計測」などの分析・計測法に関して、その機器や測定の基本原理を系統的に講義形式で学ぶとともに、その技術を体得するための実習も同時に行うことを特徴とします。さらにこのような最先端計測技術の基礎となっている原理についても講義形式で学ぶことができます。このプログラムで学んだ計測技術を実際の研究に役立てられることを目指します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。 実習形式の講義（先端的研究法、先端機器制御学、分光計測学）の中から4単位以上必ず取得すること。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.prc.sci.osaka-u.ac.jp/fukuprog/ 問い合わせ先： 理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター 教授 豊田 岐聡 toyodam@phys.sci.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	実験施設などの運転スケジュールにより、受け入れ人数に制限があります。学内の施設の予定が合わない場合は学外の施設を使用することもあります。実習を伴うので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。 開講場所・開講時期はシラバスにて掲載しています（確定次第随時更新）。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
241201	先端的研究法：質量分析		2	集 中	理学研究科（博士前期）	4単位 選択必修
241202	先端的研究法：X線結晶解析		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
241203	先端的研究法：NMR		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
241420	先端機器制御学		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
241421	分光計測学		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
241425	放射線取扱		2	集 中	理学研究科（博士前期）	不開講
241446	放射線計測基礎1		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
241447	放射線計測基礎2		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
241450	放射線取扱基礎		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
240752	放射線計測学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
240173	放射光物理学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
240176	加速器科学		2	2学期	理学研究科（博士前期）	
240751	加速器物理学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
241347	孤立系イオン物理学		2	2学期	理学研究科（博士前期）	H25不開講
241186	有機分光化学（I）		1	2学期	理学研究科（博士前期）	
241185	生体分子化学（I）		1	2学期	理学研究科（博士前期）	
241164	核化学1（I）		1	1学期	理学研究科（博士前期）	
241167	核磁気共鳴分光学（I）		1	1学期	理学研究科（博士前期）	
241162	無機分光化学概論		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
280694	先端物性工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280695	表面分析工学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280697	時空間フォトンクス		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
281027	レーザー分光学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
241422	放射線計測基礎		2	集 中	理学研究科（博士前期）	不開講

プログラム名称	放射線科学	
プログラム実施部局	理学研究科	
連携部局	核物理研究センター、医学系研究科 医学物理士(医学博士)コース、RIセンター他	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	放射線計測は素粒子原子核実験を行う上で基礎的な技術であり、いまでも先進的な研究開発が行われています。しかし、それにとどまらず、最先端の医療現場や様々な分野に応用され、研究・実用において不可欠なものとなっています。本プログラムでは、基礎的な計測技術の習得から、加速器を用いた最先端の放射線科学を、実験実習を中心として習得します。 このようなプログラムに対する期待は日本だけでなく大きな加速器施設を持たない近隣諸国でも非常に高まっています。本プログラムでは英語による講義・実験もあわせて用いる事により、実験は基本的に英語で行い、英語のみでも修了可能とします。これにより、日本国内だけでなく世界に開かれたプログラムとします。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。 実験科目（放射線計測基礎1、放射線計測基礎2、放射線計測応用）のうち1つ以上を履修すること。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.prc.sci.osaka-u.ac.jp/fukuprog/ 問い合わせ先：核物理研究センター 教授 能町 正治 nomachi@rcnp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	実験施設などの運転スケジュールにより、受け入れ人数に制限があります。学内（理学研究科物理学専攻協力講座）の施設の予定が合わない場合は時期を変更、または、学外の施設を使用することもあります。実習を伴うので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
241446	放射線計測基礎 1		1	集 中	理学研究科（博士前期）	実験
241447	放射線計測基礎 2		1	集 中	理学研究科（博士前期）	実験
241423	放射線計測応用		2	集 中	理学研究科（博士前期）	実験
240752	放射線計測学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
240176	加速器科学		2	2 学期	理学研究科（博士前期）	
255148	放射線診断物理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255150	高精度放射線治療		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255152	粒子線治療		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
241164	核化学 1（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241448	原子核物理基礎 1		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
241449	原子核物理基礎 2		1	集 中	理学研究科（博士前期）	英語による講義
241425	放射線取扱		2	集 中	理学研究科（博士前期）	不開講
241450	放射線取扱基礎		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
24P006	(IPC)Nuclear and Particle Physics		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	英語による講義
241451	放射線計測学概論 1		1	集 中	理学研究科（博士前期）	
241452	放射線計測学概論 2		1	集 中	理学研究科（博士前期）	英語による講義
241422	放射線計測基礎	2		集 中	理学研究科（博士前期）	不開講
241424	原子核物理基礎		2	集 中	理学研究科（博士前期）	不開講
241426	放射線計測学概論		2	集 中	理学研究科（博士前期）	不開講

※必修科目不開講につき、実験科目のうち1つ以上を履修することを要件とする。

プログラム名称	健康医療問題解決能力の涵養	
プログラム実施部局	医学系研究科医科学専攻	
連携部局	グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	保健医療系の分野において、狭義の医学領域のみではなく、人間社会の枠組みを律する人文社会科学系の知識・技能の修得が大切となります。なぜなら、わが国では少子高齢社会を迎え、健康や医療問題が複雑化している現在、健康医療問題の解決のためには、従来の健康・医療に関する知識のみで対応することは困難であり、疫学、社会科学、健康科学、環境科学、経済・経営学、法律学、倫理学、政策学など多面的かつ広い視点からアプローチする必要があるからです。 そこで、本プログラムでは、このような様々な科目を履修者のニーズに沿って自由に選択・履修することにより、短期間で効率よく健康医療問題に対応するための知識・実践能力を高め、将来この分野のリーダーとなりうる人材の養成を目指したものです。すなわち、大阪大学の教育・研究体系の柱である文理融合教育・研究の一環として、人文社会科学領域の基礎的知識を有し、社会性、倫理性、専門性、応用力、リーダーシップを兼ね備えた均衡のとれた研究者並びに専門職業人の育成を目指します。 本プログラムでは、ロンドン大学との共催セミナーの実施（疫学各論）、ニューヨークで活躍する国際弁護士の事例検討（医療・法・裁判）など、国際的な視野を広げるための授業科目を充実させていることも特長です。	
履修資格・条件	博士前期・後期課程在籍者	
前提知識の要否・目安	無	
修了要件	8単位以上	本プログラムの修了要件は、上記の講義科目から8単位以上を修得することとします。
ホームページ・問い合わせ先等	http://www.msc.med.osaka-u.ac.jp/index.html 大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室 Tel:06-6879-3912 Fax:06-6879-3919	
説明会の日程	なし	
特記事項	講義の場所・日時等は、KOANあるいはプログラムHP上で確認してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
251518	行動医学・健康科学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
250506	疫学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250507	疫学各論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250519	疫学調査フィールド実習		2	通 年	医学系研究科（修士）	
251516	医療・法・裁判Ⅰ		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251517	医療・法・裁判Ⅱ		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251502	医療経済・経営入門		1	2 学期	医学系研究科（修士）	
251501	経済学・経営学の基礎理論		1	1 学期	医学系研究科（修士）	
251513	国際感染症学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251505	環境健康リスク論		2	通 年	医学系研究科（修士）	
250520	ライフサイエンスの倫理と 公共政策		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	高度がん医療人材育成プログラム	
プログラム実施部局	医学系研究科(保健学専攻)	
連携部局	薬学研究科、核物理研究センター、 コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	チーム医療を推進し地域のがん医療の向上を図るため高度医療従事者等として、倫理性、社会性、専門性、応用力、リーダーシップを備えた幅広い均衡のとれた人材(研究者、専門職業人等)の育成を行うことを目的とします。各コース(がん医療専門医、がん医療コメディカル、がん専門インテンシブ)の受講者でかつ所定の単位数を修得することにより、異分野の専門性を垣間見ることができ有益と考えています。また、医学部附属病院オンコロジーセンター主催で専門医師、医療スタッフによる症例検討を行い最適の診療方針を議論する場としてカンサーボードを実施しており演習科目の一部として取り扱います。 がん医療の専門職は目指さない大学院生の中で、心理学、栄養学、倫理学、経済学等、がん医療に関連する領域を学ぶ学生、またがんに興味をもつ学生の受講を歓迎します。ただし、下記の開講講義は専門性の高い講義も含まれているので、事前に担当教員に相談の上、受講してください。	
履修資格・条件	①～③の条件等有 ①演習科目について受講人数の制限有(詳細は担当教員に確認要) ②開講場所が学外で行われる場合がある(詳細は担当教員に確認要) ③受講者数により開講時期を変更する場合がある(詳細は担当教員に確認要)	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの中から8単位以上を修得することとします。
ホームページ・ 問い合わせ先等	ホームページは以下の通りです。 http://osaka.ganpro.jp/index.html 問合せ先：医学系研究科保健学専攻教務係(内線2512)または 実施責任者(松浦成昭、内線2591)	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
255126	がん登録とがん予防		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255133	がんの病態生理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255134	がんの病態生理学各論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255161	臨床腫瘍学総論Ⅰ		1	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255162	臨床腫瘍学総論Ⅱ		1	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255136	緩和医療学概論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
360410	クリニカルサイコオンコロジー の理論と実践		2	1 学期	C S C D（学部・院）	
255142	がん看護論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255143	がん看護援助論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255144	症状緩和論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255149	放射線治療物理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255150	高精度放射線治療		2	集 中 (1 学期)	医学系研究科（博士前期）	
255151	小線源治療		2	集 中 (1 学期)	医学系研究科（博士前期）	
255152	粒子線治療		2	集 中 (2 学期)	医学系研究科（博士前期）	
255153	高精度外部放射線治療実習		4	1 ～ 2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255154	小線源・粒子線治療実習		4	1 ～ 2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255147	放射線基礎物理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255167	放射線基礎物理学実習		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255148	放射線診断物理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255155	病理細胞診断学特論Ⅰ		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255156	病理細胞診断学特論Ⅱ		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255158	病理細胞診断学実習Ⅰ		4	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255159	病理細胞診断学実習Ⅱ		4	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
255160	病理細胞診断学実習Ⅲ		4	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
271162	がん治療薬体内動態解析学特論		1	2 学期	薬学研究科（博士前期）	
271161	がん治療薬品学特論		1	2 学期	薬学研究科（博士前期）	
271165	がん治療薬副作用学特論		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
271164	緩和医療薬学特論		1	2 学期	薬学研究科（博士前期）	
271163	がん・緩和医療評価統計学特論		1	2 学期	薬学研究科（博士前期）	

プログラム名称	まちづくりデザイン学	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 本教育プログラムにおいては、まちづくりにおいて必要とされる、「かたち」「しくみ」「こころ」の形成のあり方に関するデザイン力を、生活の質の向上、産業の活性化、社会サービスの効果的な提供などの視点を組み込み、養うことを目指します。そのため、主に居住まちづくり、交通まちづくり、環境まちづくり系の諸科目を基礎として学び、具体の地域・まちづくりデザインにおいて、これらの要素を総合化するという授業体系を備えています。 【教育目標】 ① 現実のまちが抱えている問題発見と課題抽出能力の養成 ② まちづくりデザインを構成する各分野における基礎的知識の習得 ③ 課題解決のための各分野における実践技術の習得 ④ 各分野における個別デザイン能力の養成 ⑤ 具体の地域における総合的デザイン能力の養成	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ・問い合わせ先等	工学研究科地球総合工学専攻 助教 猪井博登（いのい ひろと） inoi@civil.eng.osaka-u.ac.jp 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 TEL：06-6879-7609 FAX：06-6879-7612	
説明会の日程	平成25年4月5日（金） 10：30～ 産学連携本部A棟1Fセミナー室（犬飼池西側） （環境イノベーションデザイン学と共催）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360107	リノベーションまちづくりデザイン		2	1 学期	CSCD（院）	
280907	交通・地域計画論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280190	交通システム分析論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280096	環境行動論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280968	地域施設整備論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281098	建築マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281099	都市デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280845	共生都市環境論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280846	共生環境デザイン論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
360225	地域交通コミュニケーション特論		2	2 学期	CSCD（学部・院）	
281193	集落・都市のコンテクスチャルデザイン		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	

プログラム名称	高度溶接技術者プログラム	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	接合科学研究所	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要及び教育目標	溶接技術は、素材から製品の組み立てに至るものづくり基盤技術の中核として、あらゆる製造分野で活用されています。溶接の原理は、アークやレーザなどの熱源によって、材料局部を溶かしてつなぐことですが、急速な加熱・冷却は溶接部分の強度や耐食性などを劣化させ、同時に変形や残留応力発生の原因にもなります。 従って、製品品質や安全性を確保するためには、溶接の前後工程の適切な処理や品質検査を実施する必要があります。溶接技術は未だ完成された技術ではなく、製品に応じた適正な溶接継手を作るためには、溶接施工に関わる技術者の知識・経験が不可欠であることが、国際標準ISO14731「溶接技術者の任務と責務」にも明記されています。 本プログラムでは、ものづくり分野で必要とされている高度溶接技術者の育成に向けて、溶接プロセス・機器、材料・溶接性、溶接構造物の力学、溶接施工管理に関する知識を修得できるよう体系化しています。	
履修資格・条件	学生教育研究災害傷害保険に加入していること。(大阪大学学生は全員加入することになっています。)	
前提知識の要否・目安	IWEディプロマ資格(終身資格)の取得を目指す方は、理工系4年制大学卒以上の学歴が必要です。資格取得を目指すさない方は、特に前提知識は必要ありません。不明な点等があれば、問合せ先にお尋ね下さい。	
修了要件	10単位以上	本プログラムの科目から10単位以上。ただし、溶接プロセス学特論、ジョイニングプロセス特論Ⅱ、構造化設計学、溶接施工管理論Ⅰの4科目8単位は必修。
	※本プログラムの修了に必要な単位(必修の4科目8単位を含めて10単位以上)と各自の所属研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に最低4単位は、本プログラムの単位として修得する必要があります。	
ホームページ・問い合わせ先等	http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 工学研究科マテリアル生産科学専攻 教授 平田 好則 hirata@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6879-7554 同専攻 助教 高原 渉 takahara@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6879-4737	
説明会の日程	合同説明会とは別に、個別での説明会も行いますが、その日程・場所等は、決まり次第、ホームページ等で通知します。 合同説明会 (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	本プログラムを修了したのち、ものづくり分野で溶接・生産関連技術者として経験をつむとともに、より実地的な知識の修得に努めると、55ヶ国が加盟している国際溶接学会(IIW)から発行され、世界に通用する国際溶接技術者(International Welding Engineer) IWEディプロマ資格の取得につながります。 授業のなかで一部、実習・演習を学外で行う場合があります。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
281134	溶接プロセス学特論	2		2学期	工学研究科（博士前期）	
281135	溶接施工管理論Ⅰ	2		2学期	工学研究科（博士前期）	
280950	ジョイニングプロセス 特論Ⅱ	2		2学期	工学研究科（博士前期）	
280791	構造化設計学	2		2学期	工学研究科（博士前期）	
281136	溶接施工管理論Ⅱ		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
281137	溶接施工管理論Ⅲ		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280949	ジョイニングプロセス 特論Ⅰ		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280789	加工物理学Ⅰ		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280329	先端構造評価論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280792	構造化評価学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280115	機能材料学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280245	材料機能化設計学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280951	接合プロセスメタラ ジー論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280780	材料加工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280761	機械材料学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280348	弾塑性学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280965	構造体強度論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280901	応用鋼構造学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280228	鋼構造設計工学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280652	材料創成論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	

専門外で授業についていけないか不安に思われる方へ

本プログラム「高度溶接技術者プログラム」の各開講科目は相当専門的といえます。しかし、「溶接」は、もともと学際的な分野で、これまでも、専門の異なる教員同士が協力して教育を行ってきました。よって、専門外の方で、授業についていけないか不安に思われる方でも、少しでも興味があれば、気楽に問合せ先に御連絡ください。可能であれば、個別に、各人の動機や専門分野、学習環境等を伺った上でアドバイスできれば、と考えています。

プログラム名称	学際光科学	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	理学研究科、基礎工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	光科学は情報探索手段としてだけではなく、エネルギー創生、通信、デバイス、加工、医療などの分野で重要な役割を担っています。そのため、光科学は様々な分野、コミュニティとの連携が可能な学際型科学としての性質があります。一方、大阪大学では基礎研究から産業応用に至る各分野で、光に関する優れた研究が数多く行われています。本プログラムではこの特色を生かして、光科学に関する幅広い専門性を有し、複眼的な視野から光科学の研究開発のブレイクスルーを成し遂げられる研究者および職業人の育成を目標とします。 本プログラムでは授業科目を「先端光」、「光物性」、「ナノフォトニクス」、「パワーフォトニクス」、「光応用」、「計測・分光」、「社会人基礎力」のカテゴリに分類しています。このうち「社会人基礎力」を除いた2つ以上のカテゴリから合計8単位以上の単位取得を修了条件としますので、光科学の学際的専門性を身につけることができます。また「社会人基礎力」のカテゴリでは、研究開発のブレイクスルーに関する講演やそのためのコミュニケーション力、リーダーシップ力などに関する授業科目も提供します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	前提知識不要	
修了要件	8単位以上	本プログラムの定めるカテゴリ「先端光」、「光物性」、「ナノフォトニクス」、「パワーフォトニクス」、「光の応用」、「計測・分光」、「社会人基礎力」のうち、2つ以上のカテゴリ（「社会人基礎力」は除く）から合計8単位以上の単位を修得することとします。
ホームページ・問い合わせ先等	光科学センター 担当：安食 博志（あじき ひろし） TA棟806号室 内線4453 メールアドレス：ppc@ppc.osaka-u.ac.jp ホームページ：http://www.ppc.osaka-u.ac.jp/fuku-puro/ 電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名を記載して下さい。	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	複数年度にまたがる履修、博士前期課程と後期課程にまたがる履修を認めます。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
286254	先端レーザー工学特論		2	2学期	工学研究科（博士後期）	
240173	放射光物理学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
280960	量子光工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
290279	物性基礎理論Ⅱ		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
240192	量子多体系の物理		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
240172	光物性物理学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
280578	光物性・光エレクトロニクス		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
290370	汎分光		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290554	先端物質設計論		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
241256	ナノマテリアル・ナノデバイス デザイン学		1	年2回	理学研究科（博士前期）	
280466	非線形光学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280601	量子光電子工学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
290434	微小物質光学応答		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290238	量子エレクトロニクス		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280494	分子光電デバイス		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
290565	先端微小物質科学特論		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290437	ミクロ分子分光学		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280718	光化学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280820	レーザープラズマ物理学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
240174	極限光物理学		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
280959	プラズマフォトンクス		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280815	パワーフォトンクスシステム		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280873	量子ビーム化学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
280957	凝縮応用物理学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280825	核融合工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280035	レーザープラズマ工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280827	レーザー応用理工学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
290644	テラヘルツ波工学		2	集 中	基礎工学研究科（博士前期）	
280874	レーザーエネルギー工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280203	光波電子工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280840	光電波伝送工学		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
290581	光波・マイクロ波工学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
290558	環境光化学		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
240648	天体輻射論		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
280576	光学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
280760	光マイクロ機械計測学		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
290479	科学計測学		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
240217	量子分光学		2	2学期	理学研究科（博士前期）	
241162	無機分光化学概論		2	1学期	理学研究科（博士前期）	
241167	核磁気共鳴分光学（Ⅰ）		1	1学期	理学研究科（博士前期）	
241186	有機分光化学（Ⅰ）		1	2学期	理学研究科（博士前期）	
241127	宇宙地球分光学		2	2学期	理学研究科（博士前期）	
240209	素粒子・核分光特論		2	2学期	理学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
281141	インターンシップ・オン・ キャンパス		2	2学期	工学研究科（博士前期）	

プログラム名称	キャリアデザイン ～高度な学びを活かすキャリアパスをデザインする～	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	基礎工学研究科、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 本プログラムにおいては、大学院での学びを通して得られる「高度専門知識と研究能力」の意味と価値を考え、得た高度専門知識と研究能力を「どのように職業に活かして行くか」について、先行する人々の多様なケースを学びつつ考え、議論します。加えて、高度な学びを通して身につけた知識・能力を、各自が就く職業において大いに発揮し活躍するのに必要な能力について、企業や組織の最前線で活躍する方々の講話と議論を通して学びます。これらを通して、将来のキャリアを考えた「受講生各自の学びのデザイン」を行います。 【教育目標】 ① 「大学院での高度専門知識と研究能力の涵養」の意味と価値を考え・知る ② 「大学院で涵養した高度専門知識と研究能力」の職業への活かし方を考え・知る ③ 職業人として必要な能力を涵養する ④ 自らの「価値」獲得目標を明確にし、自身の「キャリアをデザイン」する	
履修資格・条件	特になし。ただし大学院における高度な学びの意味と職業への接続について、教員、講師と受講生と共に、真剣に考え議論する意欲を持つ学生の受講を期待します。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	「キャリアデザイン」副プログラム構成科目群（6科目）から複数の科目を受講し、2年間で8単位以上を修得すること。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/ 学際融合教育受講ガイダンスシステム： https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/ 電話番号：06-6850-6209、FAX：06-6850-6853	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	本副プログラムの受講申請は、学際融合教育受講ガイダンスシステム（https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）から行うこと。 集中講義科目の開講日程については、別途KOAN等で掲示する。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備 考
		必修	選択			
C50102	学際科目（高度な学びの意味を考える）		2	集 中 （3日）	全学教育推進機構（学際 融合教育研究センター）（院）	
290712	高度な学びの職業への接続を考える		2	集 中 （3日）	基礎工学研究科（博士前 期）	
281161	科学技術と社会－未来を拓く科学技 術を考える－		2	集 中 （3日）	工学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
281141	インターンシップ・オン・キャン パス		2	2学期	工学研究科（博士前期）	
084030	総合科目Ⅲ（キャリアデザイン）		2	1学期	工学部	

プログラム名称	国際標準化	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	国際公共政策研究科、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 本プログラムにおいては、様々な領域において進められている国際標準化) について、日本の成長の鍵となる「国際ビジネス」と標準化の関わりについて 広く学ぶことを通して「国際標準化」の意義について理解し、次に「学協会や 企業活動」における具体的な標準化の取組みを学び、標準化への取組みにおい て極めて重要な役割を果たす「知的財産権」に関する知を修得し、標準化案を、 複数の国の利害を超えて合意形成しまとめるプロセスにおいて大きなウエイト を占める「交渉力」について実践を交えて身につけます。 【教育目標】 ①「標準化」について、「国際ビジネス」における重要性和、企業事業戦略 との関わり、「国際標準化」を策定する機関や仕組みについて学び・理 解する。 ②「国際標準化」を進める際に重要となる「知的財産権」について学び、標 準化との関係を理解する。 ③学協会・企業活動での具体的な国際標準化の取組みを学び・理解する。 ④標準化案を、複数の国の利害を超えて合意形成しまとめるプロセスにおい て大きなウエイトを占める「交渉力」について実践を交えて身につける。 ⑤上記学びを通して、「国際標準化」について相当の知識と標準化マインド を有し、グローバルに活躍できる学生を輩出し、将来のリーダーとしての 資質を備えさせる。	
履修資格・条件	下記①～③の条件等有 ①演習科目・遠隔講義について受講人数の制限有(詳細は担当教員に確認要) ②早稲田大学との単位互換科目は工学部で行われる。(詳細は担当教員から連 絡) ③夏季集中講義科目がある。(日時と場所等の詳細は、担当教員から連絡)	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に要しない。グループ討論等への積極的に取り組むマインドが必要	
修了要件	8単位以上	「国際標準化」副プログラム構成科目群から複数の科目を受 講し、2年以内に選択必修科目 1 科目(2単位)を含む8単 位以上を修得すること
ホームページ・ 問い合わせ先等	ホームページ: http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/gakusai/ 学際融合教育受講ガイダンスシステム: https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/ 問合せ先: 学際融合教育研究センター 中西 浩 E-mail: nakanishi@idiscp.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6850-6209 Fax: 06-6850-6853	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	本副プログラム受講希望者は、受講登録に先立ち、本プログラム実施教員 (中西浩: 06-6850-6209、e-mail: nakanishi@idiscp.oadaka-u.ac.jp) に 下記事項を送付のこと。 氏名(ふりがな)、学籍番号、電話番号、メールアドレス、履修希望科目名と 科目コード。その際、件名を「高度副プログラム履修 登録」として下さい。 なお、連絡が無い場合は履修できません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		選択必修	選択			
281158	国際ビジネスと標準化	2		集 中	工学研究科（博士前期）	注
C50101	学際科目（国際ビジネスと標準化）	2		集 中	全学教育推進機構（学際融合教育研究センター）（院）	注
280645	知的財産権		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280646	知的財産権演習 ^{*1}		1	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
310983	プロジェクト演習（ネゴシエーションⅠ）M		2	集 中	国際公共政策研究科（博士前期）	
W-1517	情報通信と国際標準化		2	2 学期	早稲田大学 国際情報通信研究科	部局間で単位 互換協定を締 結済み。遠隔 講義で開講
W-1518	企業ビジネスと標準化		2	1 学期	早稲田大学 国際情報通信研究科	部局間で単位 互換協定を締 結済み。遠隔 講義で開講
280641	テクノロジーデザイン 論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280642	テクノロジーデザイン 演習 ^{*2}		1	1 学期	工学研究科（博士前期）	
286209	テクノロジーデザイン 特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	

^{*1} 必ず「知的財産権」とセットで履修すること。演習のみの履修は認められない。

^{*2} 必ずテクノロジーデザイン論とセットで履修すること。演習のみの受講は認められない。

注：授業科目「国際ビジネスと標準化」と授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」の授業内容は、同じである。
受講生は、下記を参考に、どちらの科目を選択するか決めることを勧める。

1. 工学研究科の学生

- ①授業科目「国際ビジネスと標準化」が、自身の修了要件科目となっているかどうか確認
- ②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、「国際ビジネスと標準化」を履修登録する
- ③上記①で、修了要件科目となっていない場合
 - a. 授業科目「国際ビジネスと標準化」を選択すると、知のジムナスティックス（高度教養プログラム）科目として単位が認定されない。
 - b. 授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」を選択すると、知のジムナスティックス（高度教養プログラム）科目として単位が認定される。

2. 工学研究科以外の学生

- ①授業科目「国際ビジネスと標準化」と授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」の両方あるいはどちらかが、自身の修了要件科目となっているかどうか確認
- ②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、修了要件科目となっている方を履修登録する
- ③上記①で、修了要件科目となっていない場合
両方ともに知のジムナスティックス（高度教養プログラム）科目になっており、どちらを選択しても、本副プログラムの修了要件単位となり、かつ知のジムナスティックス（高度教養プログラム）科目として単位が認定される。

プログラム名称	量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	理学研究科、情報科学研究科、基礎工学研究科、産業科学研究所、原子分子イオン制御理工学センター、科学教育機器リノベーションセンター、超高圧電子顕微鏡センター	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要及び教育目標	英語コースとして設置されている国際教育プログラム”量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム”に参加します。本プログラムを通して、第一原理計算および量子ダイナミクスシミュレーション等を活用し、物質機能の科学的解明や新規材料・プロセス・デバイスのデザイン・創製研究を行う量子デザイン研究手法を習得することができます。特に希少元素代替材料の開発、太陽電池、水素燃料電池等の環境に優しい高効率エネルギー・省資源材料技術の開発に貢献する研究を推進します。 本プログラムでは、様々な分野との連携による学際的研究を重視し、複数の研究科・専攻の講義を受講することで、幅広い知識をもった研究者の育成を目指します。また、集中講義では、コンピューターを使った研究手法の実践的な実習を行います。英語での講義やゼミナールを通じ、教員、留学生、日本人学生が交流することにより、グローバル化の進む研究機関や企業で国・地域・分野を問わず活躍できる国際感覚豊かな研究者の育成を目指します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	初等量子力学の知識のある方が望ましい。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ・問い合わせ先等	量子エンジニアリング研究特別プログラム事務局： 工学研究科精密科学・応用物理学専攻笠井研究室 Tel：06-6879-7857 e-mail：qedc-staff@dyn.ap.eng.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
280488	物性物理		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280476	表面・界面物性		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
331205	数値情報解析		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	
281164	量子シミュレーション特論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281073	計算科学特論 I		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280651	機能創成デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280498	分子電子工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280485	物性基礎理論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280797	ナノプラズマ工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290433	理論物質科学		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
240190	固体電子論 I		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280939	解析力学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280571	近接場ナノ工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
241168	化学反応論（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280461	半導体物性論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280769	量子材料物性論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280118	極限精密加工学特論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290624	計算力学特論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290623	固体力学特論		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
281050	プラズマ応用工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280601	量子光電子工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280478	表面原子制御特論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
286146	物性物理特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286141	表面物性特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
333202	情報非線形数理学		2	2 学期	情報科学研究科（博士後期）	
286050	計算物理特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286209	テクノロジーデザイン特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286262	先端集積エレクトロニクス 工学特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286081	材料物性学特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286128	超精密加工学特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286060	原子制御プロセス特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
240927	計算機ナノマテリアルデザ インチュートリアル		2	集 中	理学研究科各専攻共通科目 （博士前期後期）	

プログラム名称	言語情報処理の手法と展開	
プログラム実施部局	言語文化研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	情報メディアとしてのパーソナルコンピュータ、インターネットの普及により、文書・資料の電子化が急速に進み、デジタル化されたテキストの量は爆発的に増大しています。これにともない、膨大な自然言語データの中から有益な情報を効率的に抽出するための情報マイニング技術の開発が学界のみならず産業界においても求められています。大規模な自然言語データを分析・活用するためには、従来の言語学、文献学の理論・方法論に加え、情報工学、数理統計学、行動科学など関連領域の知見を統合した学際的なアプローチが必要となります。 そこで、本プログラムでは、自然言語処理とコーパス言語学研究を二本の柱として、それぞれの基礎理論と応用実践の方法論を有機的に組み合わせ教授します。自然言語処理では、情報工学の基礎理論から、形式言語理論や形式論理に基づいた統語処理・意味処理・談話処理について学びます。さらに、自然言語処理モデルを計算機に実装するためのプログラミングや、言語処理ツールを駆使する技法を習得します。コーパス言語学研究では、コーパスデザインに関する理論や、TEI (Text Encoding Initiative: 言語データ電子化のため国際共通規格)、言語データ解析のための数理統計モデルに関する講義を行うとともに、実践的なコーパス分析の演習を行います。当プログラムが提供するコースワークを通して、受講生は、膨大な自然言語データの中から自分や社会のニーズに合致した情報の鉱脈を掘り当て活用する高度な言語情報処理能力を修得できるでしょう。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	全体で8単位以上。ただし、自然言語処理A・Bから2単位以上コーパス言語学研究A・Bから2単位以上を取得すること。
ホームページ・問い合わせ先等	言語文化研究科大学院係（豊中キャンパス） TEL 06 (6850) 5856 メールアドレス genbun-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	—	
特記事項	プログラムに該当する授業の内容は、KOANのシラバスと各授業の第1回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300319	自然言語処理A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
300320	自然言語処理B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
300311	コーパス言語学研究A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
300312	コーパス言語学研究B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
300315	コーパス言語学研究A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
300316	コーパス言語学研究B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
300349	コーパス言語学研究A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
300350	コーパス言語学研究B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	

<該当授業と講師、その第1日目の授業日・場所の予定>

自然言語処理A	林 良彦	月曜5限	4/15	「第4演習室」
自然言語処理B	林 良彦	月曜5限	10/ 7	「第4演習室」
コーパス言語学研究A	岩根 久	金曜1限	4/12	「CALLセミナー室」
コーパス言語学研究B	岩根 久	金曜1限	10/ 4	「CALLセミナー室」
コーパス言語学研究A	田畑智司	水曜4限	4/10	「言語情報処理LLシステム室」
コーパス言語学研究B	田畑智司	水曜4限	10/ 2	「言語情報処理LLシステム室」
コーパス言語学研究A	三宅真紀	水曜5限	4/10	「言語情報処理LLシステム室」
コーパス言語学研究B	三宅真紀	水曜5限	10/ 2	「言語情報処理LLシステム室」

（注）「第4演習室（508室）」は言語文化A棟5階、「CALLセミナー室」はサイバーメディアセンター豊中教育研究棟4階マルチメディアセミナー室、「言語情報処理LLシステム室（307室）」は言語文化B棟3階です。

プログラム名称	文化と植民地主義	
プログラム実施部局	言語文化研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	近代植民地主義の開始は、15世紀末の大航海の時代にさかのぼるとされていますが、とくに18世紀以降、旧大英帝国をはじめとするヨーロッパ諸帝国による植民地支配が拡大し、世界各地の言語文化に大きな影響を与えてきました。日本文化もその例外ではありません。また、20世紀に入ってからアメリカ合衆国が世界の主導権を握り、近年ではグローバリゼーションの問題が大きく浮上してきましたが、これらの動きも以上のような近代植民地主義と無関係ではありません。 一方、世界各地の植民地が次々と独立を果たして行った20世紀後半からは、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』（1978年）をはじめ、旧植民地の人々の視点から、植民地主義の歴史やその文化的な影響を批判的に検討し、旧植民地における活発な文化活動に着目する研究、すなわちポストコロニアル研究が活発に行われてきました。 本プログラムは、このポストコロニアル研究を踏まえ、ポストコロニアル理論とその関連理論、旧植民地やその先住民の言語文化、日本文化などを検討することにより、受講生の理論的な理解力や、各種の言語文化に対する分析力を高めることを目的としています。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	対象科目を履修して8単位以上取得すること。
ホームページ・ 問い合わせ先等	言語文化研究科大学院係（豊中キャンパス） TEL 06 (6850) 5856 メールアドレス genbun-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	個別ガイダンス 4月11日（木） 12:10～13:00 豊中キャンパス 言語文化研究科A棟2階 小会議室	
特記事項	プログラムに該当する授業の内容は、KOANのシラバスと各授業の第1回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300237	現代超域文化論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300238	現代超域文化論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300235	現代超域文化論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300236	現代超域文化論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300225	言語文化理論研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300213	言語文化変容論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300214	言語文化変容論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	

プログラム名称	グローバルリーダーシップ・プログラム	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	地域医療や政治から環境、開発、人権や国際紛争まで、公共に関わる困難な問題は、原因と影響がグローバルに広がっています。このプログラムは、連携分野を通じた社会学連携を最大限に活用しつつ、国際機関、行政機関、外交、政治、企業、NGOで実際にリーダーとして活躍してきた人材を講師に迎え、グローバルな課題に取り組むリーダーシップに必要とされる考え方と方法を身につけることを目的とします。 このプログラムの教育理念は、「学び合う。社会と学ぶ」です。参加者には上記目標を達成するための「場」と「機会」が与えられます。対話的授業（ソクラティックメソッド）、ケーススタディ、他大学との合同模擬事例演習、合宿、音楽家とのコラボなど、参加者の主体性を引き出す教育方法も魅力です。 よきリーダーシップのためには継続的練習（習慣づけ）が重要です。そこで、企業やNPOとの連携により、プログラムの修了生、卒業生や一般市民に対して、気づきと学習の連鎖をうながすような課外教育プログラムも提供していきます。	
履修資格・条件	科目によっては、事前課題の提出、受講者人数の上限が定められる場合があります。正当な理由なく遅刻欠席をしないことが単位取得要件とされる場合があります。 それぞれの科目ごとの受講要件は、シラバスを参照してください。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	必修科目「リーダーシップを考える」及び「実践グローバルリーダーシップ」を含み、全体で8単位以上履修すること。
ホームページ・問い合わせ先等	国際公共政策研究科（OSIPP）GLP 事務局（野村研究室） 【E-mail】 glp@osipp.osaka-u.ac.jp（GLP 事務局） 【TEL】 06-6850-5629（直通）【FAX】 06-6850-5656（研究支援室）	
説明会の日程	決定次第KOAN の掲示板で通知します。 合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	2学期開講の「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」、「リーダーシップを考える」の履修のためには、1学期開講の「実践グローバルリーダーシップ」や「リーダーシップデザイン」の受講をすすめます。 その他については各講義のシラバスを参照してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
310119	プロジェクト演習 (リーダーシップを考える)	2		2学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311127	プロジェクト演習 (実践グローバルリーダー シップ)	2		1学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311075	プロジェクト演習 (リーダーシップデザイン)		2	1学期	国際公共政策研究科（博士前期）	①
311076	プロジェクト演習 (リーダーシップデザイン)		2	1学期	国際公共政策研究科（博士後期）	①
310983	プロジェクト演習 (ネゴシエーションⅠ)		2	1学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310991	プロジェクト演習 (ネゴシエーションⅠ)		2	1学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
310984	プロジェクト演習 (ネゴシエーションⅡ)		2	2学期	国際公共政策研究科（博士前期）	③
310992	プロジェクト演習 (ネゴシエーションⅡ)		2	2学期	国際公共政策研究科（博士後期）	③
310867	プロジェクト演習 (ディベート)		2	集 中	国際公共政策研究科（博士前期）	④
310869	プロジェクト演習 (ディベート)		2	集 中	国際公共政策研究科（博士後期）	④
311125	特殊講義（アジアにおけ る事業戦略とリーダー シップ）		2	2学期	国際公共政策研究科（博士前期）	

※①～④は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに配当している。

プログラム名称	科学技術文明における公共倫理とソーシャル・イノベーション	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	本プログラムは、大阪大学大学院国際公共政策研究科が設置する「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）寄附講座」の一環として、「科学技術文明」に関わる倫理的な諸課題（生命・医療倫理、環境倫理、情報倫理、等）について多角的に学習するものです。ここに「公共倫理とソーシャル・イノベーション」とは、国際社会及び国内社会のさまざまな課題の解決において実現されるべき公共的価値について、それが社会にとって適切な変革を生み出していくプロセス（「ソーシャル・イノベーション」の構想）を考察し、そうした社会変革に携わる人々がもつべき責任感や倫理観について究明（「公共倫理」の実践）するものです。 本プログラムは、必修科目たる総論科目、各人の関心に従い受講する各論科目及び公共的諸課題と日本との関係を考える「まとめ科目」から構成されます。 高度な科学技術は人類に恩恵をもたらすとともに、その制御を誤ったときにもたらされる惨害は人類の手に余るものとなり得ます。そのため、本プログラムでは、現代世界の直面する具体的な課題を発見し、その課題の本質を見極める目を養うとともに、高度な倫理観をもってその解決にあたり、よりよい文明・世界・社会を構築するためのイノベーション（革新）を実現できるイノベーター（革新をリードする人材）の育成を目指します。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目（2単位）と選択科目を合わせて8単位以上取得することが必要です。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページアドレス http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備 考
		必修	選択			
必修科目（※所属課程と対応する課程に配当された科目を選択し、2単位を修得すること）						
311314	特殊講義（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	①
311330	特殊研究（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	①
選択科目						
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	CSCD（院）	
360131	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期	CSCD（院）	
360419	科学技術イノベーション政策特別演習		2	1 学期 集 中	CSCD（院）	
310878	国際公共政策のための法律学		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311167	演習（核兵器と国際関係）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311317	特殊講義 （ソーシャル・イノベーションとデザイン思考）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311075	特殊講義（リーダーシップデザイン）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	②
311076	特殊講義（リーダーシップデザイン）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	②
311365	特殊講義（公共倫理を考えるⅠ）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311366	特殊講義（公共倫理を考えるⅡ）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
360115 360118 360214 360216	メディア技法と表現リテラシー		2	1 学期 1 学期 2 学期 2 学期	CSCD（院）	

※①、②は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに配当している。

プログラム名称	国際協力活動における公共倫理とソーシャル・イノベーション	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、 コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	本プログラムは、大阪大学大学院国際公共政策研究科が設置する「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）寄附講座」の一環として、「グローバルな公共政策」の諸課題（平和と安全、外交・政治、開発と環境・エネルギー、人権と人道、多文化共生、等）の解決に向けた対応や協力のあり方について、公共倫理とソーシャル・イノベーションの観点から、学習するものです。ここに「公共倫理とソーシャル・イノベーション」とは、国際社会及び国内社会のさまざまな課題の解決において実現されるべき公共的価値について、それが社会にとって適切な変革を生み出していくプロセス（「ソーシャル・イノベーション」の構想）を考察し、そうした社会変革に携わる人々がおもつべき責任感や倫理観について究明（「公共倫理」の実践）するものです。 本プログラムは、必修科目たる総論科目、各人の関心に従い受講する各論科目及び公共的諸課題と日本との関係を考える「まとめ科目」から構成され、その主たる教育目標は、現代世界の直面する具体的な課題を発見し、その課題の本質を見極める目を養うとともに、高度な倫理観をもってその解決にあたり、よりよい文明・世界・社会を構築するためのイノベーション（革新）を実現できるイノベーター（革新をリードする人材）の育成を目指します。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目（2単位）と選択科目を合わせて8単位以上取得することが必要です。
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページアドレス http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備 考
		必修	選択			
必修科目（※所属課程と対応する課程に配当された科目を選択し、2単位を修得すること）						
311314	特殊講義（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	①
311330	特殊研究（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	①
選択科目						
311315	特殊講義（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅱ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
311331	特殊研究（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅱ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
311316	特殊講義（人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310014	国際安全保障論		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310013	国際連合システム論		2	2 学期 集 中	国際公共政策研究科（博士前期）	③
310629	特殊研究（国際連合システム論）		2	2 学期 集 中	国際公共政策研究科（博士後期）	③
310412	経済開発論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310016	国際人権法		2	1 学期 集 中	国際公共政策研究科（博士前期）	
720109	国際協力を現場から考える（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	GLOCOL（院）	
311082	特殊講義（武力紛争法の基本問題）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311301	特殊講義（国際人道法）		2	1 学期 集 中	国際公共政策研究科（博士前期）	
311319	プロジェクト演習（グローバル公益と日本）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	④
311333	プロジェクト演習（グローバル公益と日本）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	④
311350	特殊講義（民主化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	⑤
311354	特殊講義（民主化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	⑤
311352	特殊講義（身体文化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
360115 360118 360214 360216	メディア技法と表現リテラシー		2	1 学期 1 学期 2 学期 2 学期	CSCD（院）	

※①～⑤は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに配当している。

プログラム名称	東南アジアにおける平和と人間の安全保障	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	薬学研究科、人間科学研究科、言語文化研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要及び教育目標	東南アジア諸国と日本のこれからのあるべき関係は、過去の歴史から教訓を学び、文化・価値の多様性を尊重しつつ、同時代の問題に共感と連帯をもって取り組むことで、共同の未来を構築していくという関係です。そのために、東南アジアの固有の歴史や社会制度について学ぶとともに、同地域社会が直面する今日的諸課題－平和構築・平和共生、社会開発、保健衛生、多文化共生など－を人間の安全保障という観点から総合的に理解することが求められます。本プログラムは、平和と人間の安全保障という概念の基本を学びつつ、それを東南アジアというフィールドにおいて具体的に理解するのに資する基礎知識、理論、フィールドワーク及びインターンシップに関する科目群を提供します。 本プログラムは、日本学術振興会平成23年度大学の世界展開力強化事業に採択された『『アジア平和＝人間の安全保障大学連合』を通じた次世代高品位政策リーダーの育成』推進の一環として設置するもので、同事業下で連携する東南アジア5大学との学生交流を念頭におき、本学学生の東南アジアに対する関心を高めると同時に、平和と人間の安全保障の普及・推進の担い手となる若い人材を育成することを教育目標としています。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する選択必修科目2単位と選択科目を合わせて8単位以上取得することとします。選択必修科目は、できる限り最初に履修してください。
	（注1）選択必修科目群から1科目のみを履修してください。 （注2）選択科目群Bの受講は4単位を上限とします。 （注3）「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修済みであることを条件とします。	
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページアドレス http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目（※ 2単位を修得すること）						
311318	特殊講義（東南アジアの平和と人間の安全保障）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	①
311332	特殊研究（東南アジアの平和と人間の安全保障）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	①
311316	特殊講義（人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
選択科目群A						
310014	国際安全保障論		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
310006	国際関係論		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311164	特殊講義（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	②
311181	特殊研究（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	②
310412	経済開発論		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
310016	国際人権法		2	夏季集中	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311265	特殊講義（地域統合）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
270212	発展途上国における感染症の現状と対策		2	1 学期	薬学研究科（修士）	
720109	国際協力を現場から考える（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	GLOCOL（院）	
216069	地域秩序論特講Ⅰ（グローバル化時代の中国と国際社会）		1	1 学期	人間科学研究科 （院前期）	
216070	地域秩序論特講Ⅱ（人間の安全保障と地域研究）		1	1 学期	人間科学研究科 （院前期）	H25 不開講
219271	ジェンダー教育学特講（B）		2	2 学期	人間科学研究科 （院前期）	H25 不開講
211708	セクシュアリティと教育特講		2	2 学期	人間科学研究科 （院前期）	
選択科目群B						
305493	アジア言語社会動態論ⅦA（インドネシア現代史）		2	1 学期	言語文化研究科 （博士前期）	
305494	アジア言語社会動態論ⅦB（インドネシア現代史）		2	2 学期	言語文化研究科 （博士前期）	
216063	超域地域論特講Ⅰ（「国境（こっきょう／くにざかい）」の地域研究）		2	1 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
216064	超域地域論特講Ⅱ（「文化接触」の地域研究）		2	2 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
216058	動態地域論特講Ⅱ（東アジア諸国のコミュニティと福祉）		2	2 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
305165	アジア言語社会構造論Ⅱ A（東南アジア大陸部における伝統的国家と少数民族との関係）		2	1 学期	言語文化研究科 （博士前期）	
216008	紛争復興開発論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
216152	グローバル人間学実践英語特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720107	海外インターンシップⅡ（A）		1	1 学期	GLOCOL（院）	履修する場合は、 どちらか1科目のみ
721107	海外インターンシップⅡ（B）		1	2 学期	GLOCOL（院）	
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	
720104	フィールドワークの実践と倫理		1	1 学期	GLOCOL（院）	

※①、②は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに担当している。

プログラム名称	ソフトウェアイノベーション先導 [組込みシステム・コース]	
プログラム実施部局	情報科学研究科	
連携部局	金融・保険教育研究センター、国立情報学研究所 GRACE センター	
履修対象者	修士（博士前期課程 1 年生） ※他学年の希望者は問い合わせてください。	
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学 大学院情報科学研究科、金融・保険教育研究センター（CSFI）、国立学研究所 (NII) は、平成 23 年度から協働で、今後の高度情報化社会においてインフラストラクチャーとなりうる情報通信技術（ICT）の中核となるソフトウェア技術に関して、文部科学省特別経費による人材育成プログラム「ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発」に取り組んでいます。 本高度副プログラム「ソフトウェアイノベーション先導 [組込みシステム・コース]」は、大阪大学の大学院生に対して、組込みシステムを構築するために必要となる教育プログラムを提供するものです。本プログラムは、組込みシステムを構築する際に必要となる教育を提供します。 - 組込みシステムの概要 - ハードウェア／ソフトウェア・コデザイン - 組込みプロセッサ設計 - 組込みシステム設計 - LSI 設計手法 - 高信頼設計手法	
履修資格・条件	博士前期課程 1 年生（他学年の希望者はソフトウェアイノベーション事務局まで問い合わせてください。）*募集者が多数の場合は、事務局で選考し、受講生を決定します。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8 単位以上	指定された授業科目より 8 単位以上修得してください。ただし、専攻の修了に必要な最低単位数以外に最低 4 単位は、本プログラムの単位として修得する必要があります。
ホームページ・問い合わせ先等	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻 武内 良典 准教授 電話：06-6879-4521 FAX：06-6879-4524 E-mail: takeuchi@ist.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	平成 25 年 4 月 5 日（情報科学研究科入学ガイダンス時に実施） 他研究科の学生は、問い合わせ先に連絡してください。 合同ガイダンス （吹田）平成 25 年 4 月 10 日（水）12 時～ 15 時 理工学図書館 図書館ホール（3 階）及び ギャラリーゾーン（2 階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
331401	システムレベル設計手法		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331402	VLSI設計論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331408	コンカレントシステム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331420	ディペンダブルシステム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331419	応用集積システム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331404	計算機援用設計論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331413	情報システム工学演習 I	2		1 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331325	コンピュータサイエンス基礎論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331525	情報ネットワーク学基礎論		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331305	ソフトウェア開発論		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	

プログラム名称	大規模適応設計プログラム	
プログラム実施部局	情報科学研究科	
連携部局	金融・保険教育研究センター、国立情報学研究所 GRACE センター	
履修対象者	修士（博士前期課程 1 年生） ※他学年の希望者は問い合わせてください。	
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学 大学院情報科学研究科、金融・保険教育研究センター（CSFI）、国立情報学研究所（NII）は、平成23年度から協働で、今後の高度情報化社会においてインフラストラクチャーとなりうる情報通信技術（ICT）の中核となるソフトウェア技術に関して、文部科学省特別経費による人材育成プログラム「ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発」に取り組んでいます。このプログラムは、産学連携、分野融合連携に基づいた研究教育プログラムを実施し、ソフトウェアデザイン技術を核とした高度なソフトウェア技術を開拓し、普及させることを目的としています。 本プログラムはその一環として、近年注目を集めているクラウドコンピューティング技術を中心に、プロジェクトマネジメント、ソフトウェア開発技術について学びます。複数人の学生でチームを組んで実施する演習や分散環境で行うソフトウェア開発演習を通じて、実践的なソフトウェア開発技術を学びます。 授業は主に隔週金曜日の2限～5限に中之島センターで実施されます。クラウド基礎PBLとクラウド開発応用は8月～9月に集中講義で実施される予定です。	
履修資格・条件	博士前期課程 1 年生（定員は 15 名程度）（他学年の希望者はソフトウェアイノベーション事務局まで問い合わせてください。）*応募者が多数の場合は、事務局で選考し、受講者を決定します。	
前提知識の要否・目安	プログラミングの経験があり（Javaが望ましい）、プログラム設計、プロジェクト管理、データベース等について学んでいることが望ましい。詳細はソフトウェアイノベーション事務局に問い合わせてください。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ・問い合わせ先等	ソフトウェアイノベーション事務局（B 322） 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-5 電話：06-6879-4104 FAX：06-6879-4114 Email: info-softinov@ist.osaka-u.ac.jp http://softiv.ist.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	平成25年4月5日（情報科学研究科入学ガイダンス時に実施）	
特記事項	詳細については、ホームページ、パンフレットを参照してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
331332	クラウド開発基礎	2		1 学期・ 集 中	情報科学研究科（博士前期）	
331335	クラウド基礎PBL	1		1 学期・ 集 中	情報科学研究科（博士前期）	
331334	クラウド開発応用	1		1 学期・ 集 中	情報科学研究科（博士前期）	
331336	クラウド発展PBL	2		2 学期・ 集 中	情報科学研究科（博士前期）	
331333	クラウド開発演習	2		通 年・ 集 中	情報科学研究科（博士前期）	

プログラム名称	感染症学免疫学融合プログラム	
プログラム実施部局	微生物病研究所	
連携部局	医学系研究科・免疫学フロンティア研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	新型インフルエンザといった新興感染症や社会的に影響の大きいAIDSやマラリア等の感染症の治療法の開発には、宿主側の免疫応答の理解が欠かせません。また、近年、常在微生物による免疫系に対するインパクトが自己免疫疾患の発症に大きく寄与していることも分かってきており、こうした免疫系疾患の治療法の開発には微生物と宿主の相互作用の理解が不可欠です。こうした背景から、従来別個の学問として発展してきた感染症学と免疫学の両方に精通している研究者の育成が喫緊の課題となってきました。 本高度副プログラムでは、そのような研究者の養成を目指して、微生物病研究所・免疫学フロンティア研究センター・医学系研究科という感染症学、免疫学のトップレベルの研究者が多数集積している有利な環境を最大限に生かした教育を行います。感染症学と免疫学の分野の第一線の講師陣が、(1) 基本概念のレクチャーと(2) 関連する領域の重要な文献に関するディスカッションという2つを1ユニットとして、プログラムを展開し、この領域で、指導的な役割を果たせる研究者の育成を実践的に行います。	
履修資格・条件	広く生物学・医学の研究に携わっている大学院博士（後期）課程学生	
前提知識の要否・目安	否	
修了要件	10単位以上	・本プログラムは2年間の課程です。受講開始は、偶数年度・奇数年度（西暦）のどちらからでも可能です。 ・「感染症学免疫学融合プログラム1、2」及び「アドバンストプログラム1、2」は全て必修です。
ホームページ・問い合わせ先等	大阪大学微生物病研究所 感染症学免疫学融合プログラム推進室 E-mail: suishin@biken.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6879-8358 Fax: 06-6879-8358	
説明会の日程	日時：平成25年4月9日（火） 実施予定 合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課 程）	備考
		必修	選択			
25DP01	感染症学免疫学融合プログラム 1	4		通 年	医学系研究科	偶数年度（西 暦）のみ開講
25DP02	感染症学免疫学融合プログラム 2	4		通 年	医学系研究科	奇数年度（西 暦）のみ開講
25DP03	アドバンスプログラム 1	1		通 年	医学系研究科	偶数年度（西 暦）のみ開講
25DP04	アドバンスプログラム 2	1		通 年	医学系研究科	奇数年度（西 暦）のみ開講

プログラム名称	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	
プログラム実施部局	国際教育交流センター	
連携部局	言語文化研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっています。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もあります。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものです。 本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考えます。これらの過程を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養することが本プログラムの目標です。 提供科目の中で、音声言語コミュニケーションや第二言語習得に関心がある人は、「言語コミュニケーション論」を、書記言語コミュニケーションに関心がある人は、「言語技術研究」を受講することを勧めます。また、言語政策、政治・社会に関心を持つ人は、「言語文化教育論」、「言語文化政策論」を受講することを勧めます。	
履修資格・条件	特に資格等はありませんが、異文化への関心が高い人もあまり関心を持たない人も歓迎します。また、現在、異文化の人とのコミュニケーションに問題を感じている人や、将来多文化的な環境の中で生活する可能性や必要性を感じる人も、受講していただきたいと思います。なお、どの授業においても、受講者同士のディスカッションを歓迎します。また、受講者は自身の専門分野について、他の受講者に対し、可能な限り明確に、かつ平易に説明することが求められます。	
前提知識の要否・目安	専門的な前提知識は特に必要としません。	
修了要件	8単位以上	対象科目を履修して8単位以上取得すること。
ホームページ・問い合わせ先等	http://www.isc.osaka-u.ac.jp 学生交流推進課 (kokusai-gakusei-ryugakusei@office.osaka-u.ac.jp 内線3127 または06-6879-7118)	
説明会の日程	(1) 合同ガイダンス(吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (2) 各授業の初日において、オリエンテーションを行うため、受講希望者は、履修希望の授業の初日にできるだけ出席すること。	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300255	言語コミュニケーション論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300256	言語コミュニケーション論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300267	言語技術研究A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300268	言語技術研究B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300281	言語文化教育論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300282	言語文化教育論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300217	言語文化政策論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300218	言語文化政策論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム： 専門科	
プログラム実施部局	臨床医工学融合研究教育センター	
連携部局	医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科、全学教育推進機構、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要及び教育目標	高度先進医療福祉社会を築くことは、我が国の緊急課題です。そのためには、新規融合科学である「臨床医工学・情報科学融合領域」の社会に適合した発展が必須であり、決定的に不足しているこの領域の人材を育成することが急務です。 本プログラムは、大学院修士・博士課程学生を対象に、最先端の工学・情報科学と医学・医療の双方に精通し、社会ニーズ・医療ニーズ・患者ニーズを理解した医療技術者など、この領域の高度技術者を育成することを目的とします。具体的には、次の3つの専門コースと1群の共通科目、および入門科目を設定し、必要なカリキュラムを専門コースごとに構成します。 (1) バイオメディカルインフォマティクスコース (2) バイオマテリアル学コース (3) 高度診断治療工学コース	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	9単位以上	①1つのコースの中から、講義科目 8単位以上、および②演習科目から 1単位以上を修得すること。ただし、①については、8単位のうち 4単位以上は所属研究科外（医学系研究科においては医科学専攻と保健学専攻は別研究科とみなします。）の講義科目とします。入門科および共通科の授業科目については、コース修了要件としてはそれぞれ 2単位までを認定します。
ホームページ・問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	MEIセンター履修説明会 (吹田①) 平成25年4月 9日(火) 16時30分～ 工学研究科 (吹田②) 平成25年4月 9日(火) 17時30分～ 医学系研究科保健学専攻 (豊 中) 平成25年4月11日(木) 16時30分～ 基礎工学研究科 会場の詳細については、MEIセンターホームページを参照ください。 合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～ 15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～ 15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
臨床医工学融合研究教育センター作成の冊子（履修手引） および本センターホームページに掲載のシラバスを参照						

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科	
プログラム実施部局	臨床医工学融合研究教育センター	
連携部局	経済学研究科、医学系研究科、薬学研究科、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	臨床医工学・情報学分野の職業のプロフェッショナル教育を目指し、次の4つのコースを構成します。 (1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース 「患者からはじまる医療」の確立を志向し、高い倫理観とコミュニケーション力、高度の専門的知識と技能、豊富な経験と実践力を兼ね備え、質の高い臨床研究を計画・遂行できる、良質な臨床研究専門家（臨床試験専門医、医学統計家、データマネージャー、臨床研究コーディネーターなど）の育成を目標とします。さらに、国際共同臨床試験への参画などを踏まえて、人材の国際性についても配慮し、これらの教育・指導にあたる担当者の育成を目標とします。 (2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース 医学、歯学、薬学、理学、工学、情報科学の学術的複合領域である分子イメージングの分野において、先端知識を活用できる研究者、医師、歯科医師、薬剤師、医療技術者、企業研究者、治験計画立案者などを養成すると共に、プロフェッショナルな人材育成を目的とします。 (3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース 医療環境を改善するために新しいシステムを適用しようとするとき、システム導入による影響をシミュレーションし、その結果をふまえてシステムを修正し、現場に応用します。さらにはシステム運用の結果として生じた影響を検証し問題点を克服するためのシステム修正を行います。このようなプロセスが、より良い医療システムの構築には必須です。このコースでは、公衆衛生学・実験経済学・基礎統計学を基本的に理解し、それらを融合した医療経済学を、実践的研究を通じて学ぶ場を提供します。 (4) 医工連携がん研究プロフェッショナル育成コース がんの診断・治療の向上のためには工学の知識・技術を医療に応用する医工連携研究が必須です。本コースは医工連携教育によりがんの先端的な基礎的・臨床的研究を推進する理工系の人材を養成するものです。理工系の各専門分野の知識・技術に加えて、がんに関する基礎および臨床医学について学ぶことにより、領域横断的な研究者が養成され、新たな医療機器、医療材料、医薬品の開発や情報科学、数理統計学の医療への応用をめざした人材の育成をめざします。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	(1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース:10単位以上	基礎コア科目から6単位、専門コア科目から4単位以上の10単位以上を修得すること。副科目は修了要件に含めないが、コースの内容に関連するので、必要に応じて履修すること。
	(2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース:11単位以上	必修科目7単位、選択科目から4単位以上の11単位以上を修得すること。
	(3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース:11単位以上	必修科目7単位、選択科目から4単位以上の11単位以上を修得すること。
	(4) 医工連携がん研究プロフェッショナル育成コース:10単位以上	必修科目6単位、選択科目から4単位以上の10単位以上を修得すること。
ホームページ・問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	MEIセンター履修説明会 (吹田①) 平成25年4月 9日(火) 16時30分～ 工学研究科 (吹田②) 平成25年4月 9日(火) 17時30分～ 医学系研究科保健学専攻 (豊中) 平成25年4月11日(木) 16時30分～ 基礎工学研究科 会場の詳細については、MEIセンターホームページを参照ください。 合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及びギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
臨床医工学融合研究教育センター作成の冊子（履修手引） および本センターホームページに掲載のシラバスを参照						

プログラム名称	コミュニケーションデザイン	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
連携部局	文学研究科・グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
履修対象者	学部5、6年次・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	高度専門教育を受ける大学院学生に対して、その専門性の社会的意義を自覚させ、社会から信頼される専門家としての素養を与えるための、コミュニケーション能力の育成を図ります。 本プログラムでは、文系、理工系、医科学系の大学院生の混成による教育を基本とし、異なる専門性のあいだの相互理解、自らの専門性の特質の理解、社会とのコミュニケーションの必要性の理解の獲得を目指します。またプログラムを通じて、インタラクティブな講義や実習、各種ワークショップ形式を組み込み、座学による知識の習得とは異なる観点からの教育を行います。 本プログラムの基礎科目として「メディア技法と表現リテラシー」を必修とし、多様な分野で求められる知的表現・プレゼンテーション（コミュニケーション）の基礎的スキルを与えるとともに、「コミュニケーションデザイン」という考え方を習得します。 その上で、選択必修科目として4単位以上を修得します。ここでは、多様な領域におけるコミュニケーションデザインを実践的に学ぶことが期待されています。 発展科目（必修2単位）として「領域横断・演劇創作ゼミ」を履修します。この科目では、受講生の専門性を生かした演劇を創作することを通じて、表現力と異文化理解（異なる専門性のあいだや、非専門家との間の理解を含む）の能力を習得します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	・学部5、6年次生は、プログラムが指定する科目のうち、学部生が受講できる科目の中から、必修科目4単位を含む合計8単位以上を修得すること。 ・大学院生は、プログラムが指定する全ての科目の中から、必修科目4単位を含む合計8単位以上を修得すること。 ・発展科目の履修は、基礎科目を含む6単位の修得を前提とする。 ・文学研究科開講の科目については、備考欄に指定する担当者の授業のみ該当。
ホームページ・問い合わせ先等	問い合わせ先：全学教育推進機構等事務部大学院係 Tel:06-6850-6214 E-mail: zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://cscd.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	1.「高度副プログラム・副専攻プログラム」の合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) 2.CSCD提供科目の第1回目の授業の際に、各担当教員が説明を行います。	
特記事項	本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科・部局によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360115 360118 360214 360216	メディア技法と表現リテラシー	2		1 学期 1 学期 2 学期 2 学期	CSCD (学部 5.6・院)	
360501 360502	領域横断・演劇創作ゼミナール	2		1 学期 2 学期	CSCD (学部 5.6・院)	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期 2 学期	CSCD (院)	
360419	科学技術イノベーション政策特別演習		2	1 学期	CSCD (院)	
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360121	臨床コミュニケーション		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360122	ヒューマンコミュニケーション		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360128	認知症コミュニケーション A		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360221	身体コミュニケーション		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360403	医療対人関係論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360123	セーフティネット論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	25年度 不開講
360410	クリニカルサイコソコロジの理論と実践		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360411	アート・プロジェクト入門 I		4	通 年	CSCD (学部・院)	
360412	アート・プロジェクト入門 II		4	1 学期	CSCD (学部・院)	
360207	アート・アーカイブズ概論		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360103 360204	パフォーミングアーツの世界		2	1 学期 2 学期	CSCD (学部・院)	
360302 360218	文理融合創造ゼミナール		4	1 学期 2 学期	CSCD (院)	
360308	アート・プロデュース論演習		2	1 学期	CSCD (院)	
360129	地域交通コミュニケーション概論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360417	交流システム実践論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360225	地域交通コミュニケーション特論		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360418	ワークショップ設計論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360416	観光まちづくり学実践論		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360107	リノベーションまちづくりデザイン		2	1 学期	CSCD (院)	
360219	Global Threats and Sustainability		2	2 学期	CSCD (院)	
360228	世界観の歴史		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360413	Frontier of Sustainability Science		2	1 学期	CSCD (院)	
360135	私と世界の遠近法		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360125	市民のための世界史S		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360224	認知症コミュニケーションB		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360414	サウンド・オブ・ミュージック		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360137	対話技法論 I		2	1 学期	CSCD (院)	
360230	対話技法論 II		2	2 学期	CSCD (院)	
360127	思考の活動とメディア I		2	1 学期	CSCD (院)	
360223	思考の活動とメディア II		2	2 学期	CSCD (院)	
360130	科学技術イノベーション政策概論		2	1 学期	CSCD (院)	
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360134	多文化サポート概論 I		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360229	多文化サポート概論 II		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
360133	医療人類学		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360136	放送のプロフェッショナルと社会を考える		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360138	文化資源学入門		2	1 学期	CSCD (学部・院)	
360231	文学と社会		2	2 学期	CSCD (学部・院)	
200507 200508	臨床哲学演習		2	1 学期 2 学期	文学研究科 (博士前期)	中岡成文
200521	倫理学演習		2	1 学期	文学研究科 (博士前期)	25年度 不開講
204126	芸術学講義		2	1 学期	文学研究科 (博士前期)	藤田治彦
209109	芸術学特殊講義		2	1 学期	文学研究科 (博士後期)	藤田治彦
20C211	芸術環境論講義		2	1 学期	文学研究科 (修士)	平川大作
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL (学部・院)	
720202	多言語共生社会演習		2	1 学期	GLOCOL (学部・院)	

プログラム名称	公共圏における科学技術政策	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター	
連携部局	国際公共政策研究科、人間科学研究科、医学系研究科、工学研究科、基礎工学研究科、法学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そのためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。 この認識のもと本プログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。 なお、本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」の基盤的研究・人材育成拠点を担うものとして実施されます。 【教育目標】 自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	必修科目：2単位
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ： http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/learn/gp/stips.php 全学教育推進機構等事務部 大学院係 E-mail: stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	学際融合教育支援システムの受講ガイダンス機能を利用して申請してください。（https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360130	科学技術イノベーション政策 概論	2		1 学期	CSCD（院）	
360419	科学技術イノベーション政策 特別演習		2	1 学期	CSCD（院）	受講制限 有り
360131 360226	科学技術と コミュニケーション		2 2	1 学期 2 学期	CSCD（院）	
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	CSCD（院）	
211686	社会における科学技術特定演 習		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
310402	公共政策Ⅰ		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
310571	環境法		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
310655	特殊研究（環境法）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290704	ナノテクノロジー社会 受容特論A		1	1 学期	基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育 研究センター提供）	
250520	ライフサイエンスの倫理と 公共政策		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
310779	特殊研究（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	
220515	総合演習（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221407	特定研究（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	CSCD（院）	
311310	特殊講義 （人事マイクロデータ分析Ⅰ）		2	通 年	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311324	特殊研究 （人事マイクロデータ分析Ⅲ）		2	通 年	国際公共政策研究科 （博士後期）	

プログラム名称	金融・保険	
プログラム実施部局	金融・保険教育研究センター	
連携部局	基礎工学研究科，理学研究科，経済学研究科，情報科学研究科	
履修対象者	スタンダード・プログラム：修士 及び 博士 アドバンスト・プログラム：博士	
プログラム概要 及び教育目標	文部科学省特別教育研究経費（連携融合）に採択された“新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発”の実施母体として，2006年4月に発足した大阪大学金融・保険教育研究センター（CSFI）が，金融・保険に関わる学際的分野でのスペシャリストを育成することを目標とし提供するプログラムです。 この文理融合型教育プログラムは，学内の設立母体である基礎工学，経済学，理学，情報科学研究科の4研究科と，民間および公的金融機関の連携協力のもとに提供され，(M) 数理計量ファイナンスコース，(E) 金融経済・工学コース，(I) インシュアランス・コースの3コースで構成されています。さらに履修者のレベルにあわせて，各コースは，博士前期・修士課程レベルに対応する[S] スタンダード・プログラムと博士後期課程レベルに対応する[A] アドバンスト・プログラムに分かれています。また最先端の学術的発展をも踏まえた教育に加え，実務家教員による実務教育にも力を入れています。	
履修資格・条件	平成22年度以前の大学院入学者を対象としています。 平成23年度以後の大学院入学者は，「副専攻プログラム（金融・保険）」の履修を検討下さい。	
前提知識の要否・目安	提供科目ごとに異なりますので，シラバスで御確認下さい。	
修了要件	8単位以上（16単位相当以上）	スタンダード・プログラム：必修科目をすべて含み，基礎科目2科目以上，専門科目4科目以上，計8科目以上。 アドバンスト・プログラム：特別科目6科目以上，計8科目以上
	上記の3つのコースごとに，各科目を，基礎科目，専門科目，特別科目に分類しており，2種プログラムの修了要件はそれぞれ上記の通りです。各コースの科目の分類については，CSFIの教育プログラム便覧〔科目対応時間割表，シラバスを含む〕を御覧下さい。	
ホームページ・問い合わせ先等	宛先：大阪大学 金融・保険教育研究センター (CSFI) 所在地：〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3 Phone：(06) 6850-6091 Fax：(06) 6850-6092 ホームページ：www-csfi.sigmath.es.osaka-u.ac.jp E-mail：csfi-questions@sigmath.es.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	平成25年度の説明会・オリエンテーションを4月8日（月），午後6時より，豊中キャンパス，法経講義棟，1階第1講義室にて開催する予定です。 合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項		

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
金融・保険教育研究センター作成の冊子（パンフレット，教育プログラム便覧 [科目対応時間割表，シラバスを含む]）および上記ホームページを参照。						

プログラム名称	ソフトウェアイノベーション先導 [ファイナンス・ソフトウェア・コース]	
プログラム実施部局	金融・保険教育研究センター	
連携部局	基礎工学研究科, 経済学研究科, 理学研究科, 情報科学研究科, [学外] 国立情報学研究所 GRACE センター	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学 大学院情報科学研究科, 金融・保険教育研究センター (CSFI), 国立情報学研究所 (NII) は, 平成23年度から協働で, 今後の高度情報化社会においてインフラストラクチャーとなりうる情報通信技術 (ICT) の中核となるソフトウェア技術に関して, 文部科学省特別経費による人材育成プログラム「ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発」に取り組んでいます。このプログラムは, 産学連携, 分野融合連携に基づいた研究教育プログラムを実施し, ソフトウェアデザイン技術を核とした高度なソフトウェア技術を開拓し, 普及させることを目的としています。 本プログラムの主たる教育活動の1つは, 大阪大学大学院等高度副プログラム制度のもと, 「高度副プログラム (ソフトウェアイノベーション先導)」の2つのコースを提供することです。その中で [ファイナンス・ソフトウェア・コース] は, 主としてCSFIが提案部局として責任を持ち, その設計・実施・運営を担当します。 極めて高度化・複雑化した金融・経済システムにおいては, 金融・保険に関わる諸分野に研究上, あるいは実務上で携わるスペシャリストが求められています。この「高度副プログラム (ソフトウェアイノベーション先導 [ファイナンス・ソフトウェア・コース])」は, 高度なソフトウェア技術を持つ金融・保険人材の育成をめざし提供されるプログラムとなっています。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	提供科目ごとに異なりますので, シラバスで御確認下さい。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ・問い合わせ先等	宛先: 大阪大学 金融・保険教育研究センター (CSFI) 所在地: 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3 Phone: (06) 6850-6091 Fax: (06) 6850-6092 ホームページ: www-csfi.sigmath.es.osaka-u.ac.jp E-mail: csfi-questions@sigmath.es.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	平成25年度の説明会・オリエンテーションを4月8日 (月), 午後6時より, 豊中キャンパス, 法経講義棟, 1階第1講義室にて開催する予定です。 合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日 (水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール (3階) 及び ギャラリーゾーン (2階) (豊中) 平成25年4月12日 (金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール (6階)	
特記事項	1・2学期とも, エントリー・出願, 履修登録は所定の期間内にKOANによって受付けます。その際, CSFI作成の冊子 (パンフレット, 教育プログラム便覧 [科目対応時間割表, シラバスを含む]) および上記ホームページに重要な情報が掲載されていますので, 御参考になって下さい。また, 休講・補講, 集中講義の日程, 等の最新の情報につきましても, ホームページに御注意下さい。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232031(M)	経営学特論（資本市場の役割と証券投資）		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
237264(D)	経営学特研（資本市場の役割と証券投資）		2	1 学期	経済学研究科（博士後期）	232031 と同一
290618	数理計量ファイナンス特別講義Ⅱ		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
232155(M)	経営学特論（計算ファイナンスの基礎）		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	290618 と同一
237618(D)	経営学特研（計算ファイナンスの基礎）		2	1 学期	経済学研究科（博士後期）	290618 と同一
230755(M)	リスク・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
237212(D)	リスク・マネジメント特研		2	1 学期	経済学研究科（博士後期）	230755 と同一
232142(M)	経営学特論（金融時系列分析）		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
237511(D)	経営学特研（金融時系列分析）		2	1 学期	経済学研究科（博士後期）	232142 と同一
331204	計画情報数理		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	
290536	金融数理特論		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290620	数理計量ファイナンス特別講義Ⅳ		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
232179(M)	経営学特論（数理計量ファイナンスに関するトピックスⅠ）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	290620 と同一
237666(D)	経営学特研（数理計量ファイナンスに関するトピックスⅠ）		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	290620 と同一
290020	データ解析		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	

その他の科目については、金融・保険教育研究センター作成の冊子（パンフレット、教育プログラム便覧〔科目対応時間割表、シラバスを含む〕）および左記ホームページを参照。

プログラム名称	グローバル共生	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	グローバル共生社会とは、異なる文化や言語をもつ人々が相互に承認しあい共存する社会です。グローバリゼーションが進めば、共生社会の到来は当たり前になるとは限りません。民族、言語、宗教などの違いによって、紛争や差別、不安が生じることがあります。つまり、グローバル共生は自然に生まれるものではなく、人々の努力がないと実現できません。言語や文化が異なる集団が、どのようなプロセスを経て違いを認識し、それぞれの文化に対して対等に敬意をもって接することができるのでしょうか。これまでの人類社会のさまざまな経験や教訓から多角的に学ぶ必要があるでしょう。グローバル共生プログラムは、専門家と実践者、市民が協働し、グローバル共生社会のデザインを描くための理論と実践方法について学ぶプログラムです。参加型・対話型・現場でのトレーニングなどの新しい教育手法を通じて、身体を動かしながら学ぶことを主眼としています。本プログラムは、高邁な理念や理想の学習だけでなく、具体的な成果を生むことを志向した実践活動を重視します。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系を問わず、全学からの受講を歓迎します。これまで多文化共生についてあまり意識してこなかった人、グローバル共生という視点から自分の生き方をとらえなおそうと考えている人を歓迎します。「足もとの国際化」に興味をもち社会貢献をめざす学生、将来国際協力などの現場で働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。	
前提知識の要否・目安	自分がどのような前提知識をもっているか、批判的に反省してください。	
修了要件	8単位以上	必修科目2単位、選択必修科目から2単位または4単位に加え、選択科目群から2単位以上取得します。
	(注1) 選択科目は、選択科目群Aから2単位以上履修することが必要です。選択科目群B(海外フィールドスタディ・海外インターンシップ科目)は2単位を上限として修了要件単位として認定します(その場合も選択科目群Aから2単位以上の履修が必要です)。 (注2) 「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修中ないしは履修済みであることを条件とします。	
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します)	
特記事項	特になし。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践	2		1 学期	GLOCOL（学部・院）	
選択必修科目（2単位または4単位履修）						
720202	多言語共生社会演習		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	集中
720205	グローバル共生実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
選択科目群 A（2単位以上履修）						
360123	セーフティネット論	H25 年度不開講			CSCD（院）	
360121	臨床コミュニケーション		2	1 学期	CSCD（院）	
360122	ヒューマンコミュニケーション		2	1 学期	CSCD（院）	
360134	多文化サポート概論Ⅰ		2	1 学期	CSCD（院）	
260229	多文化サポート概論Ⅱ		2	2 学期	CSCD（院）	
210791	人権教育学特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216022	多文化共生社会論特定演習Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216046	多文化共生社会論特別演習Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	216022 と同一
216020	多文化共生社会論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216021	多文化共生社会論特講Ⅱ	H25 年度不開講			人間科学研究科（博士前期）	
216026	人間環境論特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216027	人間環境論特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216050	人間環境論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216051	人間環境論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216028	人間環境論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	216050 と同一
216029	人間環境論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	216051 と同一
216063	超域地域論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216087	超域地域論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216088	超域地域論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216065	超域地域論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	216087 と同一
216066	超域地域論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	216088 と同一
211234	政治経済の人類学特講	H25 年度不開講			人間科学研究科（博士前期）	
216152	グローバル人間学実践英語特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
220424	総合演習（地域福祉の政治思想）		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221299	特定研究（地域福祉の政治思想）		2	1 学期	法学研究科（博士後期）	220424 と同一
311116	プロジェクト演習（NPO 研究フォーラム）M		2	通 年	国際公共政策研究科（博士前期）	
311121	プロジェクト演習（NPO 研究フォーラム）D		2	通 年	国際公共政策研究科（博士後期）	311116 と同一
311220	特殊講義（ナショナリズム論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311221	演習（多文化共生論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311229	特殊研究（ナショナリズム論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	311220 と同一
311230	特殊研究（多文化共生論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	311221 と同一
300247	現代社会ダイナミクス論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300248	現代社会ダイナミクス論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300249	現代社会ダイナミクス論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300250	現代社会ダイナミクス論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300233	公共文化形成論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300234	公共文化形成論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
306101	日本語教育学基礎論ⅠA		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
306102	日本語教育学基礎論ⅠB		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
211531	英語による論文作成・研究発表演習*		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	
720155	フィールドワークの方法Ⅱ		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	履修はいずれか1科目のみ
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
720111	開発援助における評価の理論と実践		2	集 中	GLOCOL（院）	
選択科目群 B（2単位まで認定）						
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720107	海外インターンシップⅡ(A)		1	1 学期	GLOCOL（院）	履修はいずれか1科目のみ
721107	海外インターンシップⅡ(B)		1	2 学期	GLOCOL（院）	
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	
720104	フィールドワークの実践と倫理		1	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
720114	トランスカルチュラル・スタディⅠ		2	1 学期	GLOCOL（学部）	
720115	トランスカルチュラル・スタディⅡ		1	集 中	GLOCOL（学部）	

プログラム名称	人間の安全保障と開発	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学部、人間科学研究科、経済学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、国際公共政策研究科、全学教育推進機構、コミュニケーションデザイン・センター (C S C D)、環境イノベーションデザインセンター	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	現在、世界の多くの地域で、紛争や貧困などによって人々の生活が脅かされています。これらの問題の解決には、各国政府、国際機関、NGOsなどが国境を越えて積極的に活動を展開しています。本プログラムでは、紛争や貧困、そしてそれらに付随する様々な問題を読み解き、そして各々の専門知識を生かしながら、その解決に能動的に関わることでできる人材の育成を目的とします。そのためには、受講生各々の専門分野の知識に加え、人間の安全保障と開発という視点が有効です。本プログラムは、必修科目で、人間の安全保障と社会開発、そして、紛争と平和構築に関する重要な概念、イシュー、事例について概観し、さらに、受講生各々の興味に応じて選択科目を履修するように構成されています。選択科目には国際行政や国際協力に関するものから、環境や保健・衛生まで、理系・文系の枠にとらわれず、幅広く履修できるようになっています。さらに、国際協力の分野で必要ないくつかの地域言語や、フィールドワークのスキルや評価の手法も身につけることができます。 日本人学生・留学生を問わず、将来、国際的な舞台で活躍することを希望している人に役立つようなプログラム構成です。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系、日本人・留学生を問わず全学からの受講を歓迎します。特に、将来、「開発」や「国際協力」に何らかの形で携わることを希望する学生に向けたプログラムです。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する選択必修科目（2単位以上）と選択科目を合わせて8単位以上修得することとします。選択必修科目は、できる限り最初に履修してください。 (注1)「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修中ないしは履修済みであることを条件とします。 (注2) 学部生は、学部レベルに配当された科目から履修してください。
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します)	
特記事項	・次のページの科目表で科目名に*がついているものは、英語での開講(あるいは、英語での修了が可能)となっています。 ・同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
選択必修科目（2単位または4単位履修）						
720151	人間の安全保障論*		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
311164	特殊講義（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
選択科目群 A（2単位以上履修）						
311031	特殊講義（国際行政論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
216002	国際協力学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
010568	国際協力学Ⅰ		2	1 学期	人間科学部	216002と同一
216003	国際協力学特講Ⅱ*		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
010569	国際協力学Ⅱ*		2	2 学期	人間科学部	216003と同一
216014	国際社会開発論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
010572	国際社会開発論Ⅰ		2	1 学期	人間科学部	216014と同一
216015	国際社会開発論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
010573	国際社会開発論Ⅱ		2	2 学期	人間科学部	216015と同一
216008	紛争復興開発論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
010570	紛争復興開発論Ⅰ		2	1 学期	人間科学部	216008と同一
216076	地域知識論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211644	セクシュアリティと教育 （Sexuality and Education）		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
219271	ジェンダー教育学特講（B）*		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720303	開発の政治経済学		2	1 学期	GLOCOL（博士前期）	
720201	グローバルコラボレー ションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720351	環境問題への回路Ⅰ		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720307	Food Security, Globalization and Sustainability*		2	1 学期	CSCD（院）	
232111	アジア環境・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232123	事例研究（アジアにおけ る環境保全活動）		1	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
360219	Global Threats and Sustainability*		2	2 学期	CSCD（院）	
281010	サステナビリティ評価・技術論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
251513	国際感染症学		2	通 年	医学系研究科（修士）	
251503	健康政策学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
271075	発展途上国における感 染症の現状と対策		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
271019	応用環境生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
選択科目：地域言語科目群						
＜共通教育＞「特別外国語」カテゴリより15科目（『スワヒリ語初級Ⅰ』など、全て1単位）。 詳細は、プログラム紹介冊子を参照のこと。						
720213	グローバルコラボレーション言語Ⅰ		2	2 学期	GLOCOL（院）	
720214	グローバルコラボレーション言語Ⅱ		2	1 学期	GLOCOL（院）	
選択科目：フィールド実践・研究推進・評価科目群						
720104	フィールドワークの実 践と倫理		1	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720107	海外インターンシップⅡ(A)		1	1 学期	GLOCOL（院）	履修はいずれ かのみ
721107	海外インターンシップⅡ(B)		1	2 学期	GLOCOL（院）	
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211531	英語による論文作成・ 研究発表演習*		2	集 中	人間科学研究科（博士前期）	
720155	フィールドワークの方法Ⅱ		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
720212	アカデミック・スキルズ		2	集 中	GLOCOL（学部、院）	

プログラム名称	司法通訳翻訳	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、法学部、法学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	21世紀の日本では、日本語を十分に解しないまま、外国人が刑事・民事・家事・少年といった司法手続に関わる、あるいは出入国管理や難民認定での行政手続などに臨む事案が格段に増えています。 司法通訳翻訳とは、上記のような法的場面における実務通訳や翻訳の総称です。具体的には、様々な司法ないしは行政機関や団体（例えば、弁護士会）などが関与する業務において行われています。 本プログラムは、そういった過程で必要不可欠な通訳翻訳について、特に、法律的手続、司法通訳翻訳人の役割や行動基準、実践的コミュニケーションの3つに関する知識の習得をめざします。また、スキルの向上の機会と、司法通訳翻訳のあり方について考察する場を提供するものです。科目によっては、裁判傍聴、法務総合研究所・検察庁・入国管理局、刑務所、少年鑑別所等施設訪問、警察本部見学なども含まれます。 カリキュラムとしては、選択必修科目のほか、実務通訳翻訳の理論・訓練法・職業倫理などに関する科目群（A）、司法領域の実務や手続に関する科目群（B）、そして特定言語の組合せによる通訳翻訳実習の科目群（C）の3つの選択科目群の中から、各自の必要と関心に合わせて履修することができるようになっています。	
履修資格・条件	受講資格・条件は特にありません。ただし、日本語ともうひとつの言語両方（言語組み合わせは問いません）の高度な運用能力があり、上記の領域での実務通訳翻訳に関心のある者を歓迎します。あるいは、法曹三者を目指したり、国家公務員、地方公務員（警察官含む）などを志望していたり、通訳を受ける当事者である外国人やその権利について関心のある者などの受講も想定しています。博士前期課程か後期課程で、あるいは両課程をまたいでの履修もできます。学部生の履修ができる科目もいくつかあります。	
前提知識の要否・目安	日本語と外国語の間の実務通訳翻訳への関心（但し、特定の語学運用能力は必要ありません）、あるいは国籍を問わず日本に「市民」として生活しているという意識があれば前提知識は特になくても、誰にも受講していただけます。	
修了要件	10単位以上	本プログラムで指定された選択必修科目のうちどちらか2単位と選択科目群A、B、Cのなかから8単位以上、あわせて最低10単位を履修する必要があります。
	（注1）いくつかの科目については、履修制限があるので、科目リストを参照してください。 （注2）「通訳翻訳学特論A」・「通訳翻訳学特論B」・「通訳翻訳演習」の履修は、開講部局を言語文化研究科かGLOCOLのどちらかを選択してください。なお、言語文化研究科言語社会専攻の学生は開講部局「言語文化研究科」の科目を、言語文化専攻、日本語・日本文化専攻の学生は開講部局「GLOCOL」の科目を選択してください。 （注3）「多文化共生社会論特定演習Ⅱ（B）」・「多文化共生社会論特別演習Ⅱ（B）」・「多文化共生社会論特講Ⅱ」・「公益通訳翻訳論演習Ⅰ」・「公益通訳翻訳論演習Ⅱ」の履修は、開講部局を人間科学研究科かGLOCOLのどちらかを選択してください。 （注4）学部生は、学部レベルに配当された科目から履修してください。	
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階） （その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します）	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
選択必修科目（これらの科目からいずれか2単位修得すること）						
219023	多文化共生社会論特定演習Ⅱ(B)		H25年度不開講		人間科学研究科（博士前期）	
219047	多文化共生社会論特別演習Ⅱ(B)		H25年度不開講		人間科学研究科（博士前期）	219023と同一
216021	多文化共生社会論特講Ⅱ		H25年度不開講		人間科学研究科（博士前期）	
720210	公益通訳翻訳論演習Ⅰ		H25年度不開講		GLOCOL（学部・院）	216021と同一
720211	公益通訳翻訳論演習Ⅱ		H25年度不開講		GLOCOL（院）	219023と同一
720201	グローバルコラボレー ションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
選択科目群A						
720203	通訳翻訳学特論A		2	1 学期	GLOCOL（院）	3科目は 同一科目
305505	通訳翻訳学特論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
308093	通訳翻訳学特論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士後期）	
720204	通訳翻訳学特論B		2	2 学期	GLOCOL（院）	3科目は 同一科目
305506	通訳翻訳学特論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
308094	通訳翻訳学特論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士後期）	
300289	言語表現生態論A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300290	言語表現生態論B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
216002	国際協力学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211642	医療通訳とコミュニティ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	2科目は 同一科目
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
選択科目群B						
220434	日本法総合演習		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	※1
020219	刑法2		4	2 学期	法学部	※2
020021	刑事訴訟法		4	2 学期	法学部	
220230	法務省・検察庁におけ る通訳翻訳実務論A		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220231	法務省・検察庁におけ る通訳翻訳実務論B		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220233	弁護士通訳翻訳実務論		4	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220232	警察通訳翻訳実務論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
020622	特別講義（法務省・検察庁 における通訳翻訳実務論A）		2	1 学期	法学部	220230と同一
020630	特別講義（法務省・検察庁 における通訳翻訳実務論B）		2	2 学期	法学部	220231と同一
020628	特別講義（弁護士通訳翻 訳実務論）		4	2 学期	法学部	220233と同一
020623	特別講義（警察通訳翻 訳実務論）		2	1 学期	法学部	220232と同一
選択科目群C						
通訳翻訳演習（平成25年度開講分）						
720208	中国語		4	2 学期	GLOCOL（院）	3科目は 同一科目
305507	中国語		4	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
308095	中国語		4	2 学期	言語文化研究科（博士後期）	
720207	韓国・朝鮮語		4	2 学期	GLOCOL（院）	3科目は 同一科目
305508	韓国・朝鮮語		4	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
308096	韓国・朝鮮語		4	2 学期	言語文化研究科（博士後期）	
720206	英語		4	通 年	GLOCOL（院前期・後期 津田）	720206または 各課程のAとB を受講すること
305522	英語A		2	1 学期	言語文化研究科（院前期 津田）	
305523	英語B		2	2 学期	言語文化研究科（院前期 津田）	
308134	英語A		2	1 学期	言語文化研究科（院後期 津田）	
308135	英語B		2	2 学期	言語文化研究科（院後期 津田）	
305103	アジア言語文化表象論Ⅳ A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305104	アジア言語文化表象論Ⅳ B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305011	広域言語実践論Ⅵ A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305012	広域言語実践論Ⅵ B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	

※1 主として留学生を対象とするが、日本人で法学を専攻としていない者の履修は可。

※2 法学研究科の学生の履修は不可。

プログラム名称	現代中国研究	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	文学研究科・人間科学研究科・法学研究科・経済学研究科・言語文化研究科・国際公共政策研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	1990年代以降の中国市場の突出した存在感は、中国社会の変容のみならず、中国をとりまく東・東南アジアの政治的、経済的、文化的環境を大きく変容させることとなりました。こうした中国と中国をとりまく国際社会の変化を正しく理解するためには、中国近現代史や国際政治、経済学など複数の視点の獲得と、中国や台湾との国際的な学術交流ネットワークを通じた現象理解が不可欠です。本プログラムは、中国近現代史を基盤としつつ、様々な学問領域の専門家による分野横断的で多角的な対話と、中国、台湾などにおける現地実習をとりまぜ、中国の政治や経済、文化、さらには日中関係についての受講者の関心にこたえます。 本プログラムには、中国史をはじめとする多様な分野の専門家から現代中国研究に関わる様々な論点を提示していただく「現代中国研究」、受講者がそれぞれのテーマに従って課題探求を行い、プレゼンテーションの技術を学びながら口頭発表する「中国文化コロキウム」（集中）の二つの必修科目に加えて、様々な選択科目が用意されています。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系を問わず、留学生も含めた全学からの受講を歓迎します。これまで中国についてあまり関心をもってこなかった人、中国に関心はあるが中国語に不安を感じている人を歓迎します。日中関係や東アジアの政治、経済、文化に興味をもつ学生、将来、国際協力など現場やマスメディア、企業などで幅と厚みのある実務家として働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。	
前提知識の要否・目安	中国に関する前提知識は特に必要ありませんが、関心に従って中国について自分で調べることがよりよい学びにつながります。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する基礎科目（必修）4単位と選択科目4単位以上を修得することとします。
	なお、プログラムの修了要件科目が研究科の修了要件科目と重複する場合の必要単位数の計算方法は、それぞれの研究科の履修要件に従うこととします。	
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階） （その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します）	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
基礎科目（これらの科目からいずれか4単位修得すること）						
220481	現代中国研究	2		1 学期	法学研究科（博士前期）	どちらか1 科目のみ履 修
221400	現代中国研究特殊講義	2		1 学期	法学研究科（博士後期）	
720401	中国文化コロシアム	2		集 中	GLOCOL（院）	
選択科目						
216063	超域地域論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216064	超域地域論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216087	超域地域論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216088	超域地域論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216065	超域地域論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	216087と 同一科目
216066	超域地域論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	216088と 同一科目
220354	アジア政治史		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221282	アジア政治史特殊講義		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	
232122	事例研究（中国企業経営）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
232110	アジア企業・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
216026	人間環境論特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216027	人間環境論特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
305097	アジア言語文化表象論ⅠA		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305098	アジア言語文化表象論ⅠB		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
311156	演習（軍備管理・軍縮論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311179	特殊研究（軍備管理・軍縮論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	311156と 同一科目
720104	フィールドワークの実践と 倫理		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	

プログラム名称	国連政策エキスパートの養成	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、医学系研究科、薬学研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	国連システムは、平和と安全、開発、人権の分野から、保健、環境まで多様な分野の専門機関も含め構成されており、ニューヨーク、ジュネーブ他の本部及び全世界のフィールドで活動しています。 現在、国連への財政貢献に関し日本はアメリカに次いで第二位となっていますが、その財政貢献に比較し国連で働く日本人職員の数が増えていないことがかねてから指摘されています。国連では、多くの場合経験を積んでいる専門家が即戦力として求められており、学生が卒業後直後に国連で働ける機会は非常に限られています。しかしながら、大学時代はキャリアの方向性を定める重要な時期であり、関心分野の知識を深め、大学卒業後もその分野で実務経験を積むことによって、将来的に国連においてキャリアを得る可能性が高まります。 本プログラムは、将来的に国連をはじめとする国際公共セクターでのキャリアを志向する学生に対し、諸課題の基礎知識、実践的ノウハウ及び海外インターンシップの機会を提供し、理系・文系を問わない幅広い教養とグローバル化した世界の現実に対する深い理解を涵養するための教育を行います。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	国連広報局著「国際連合の基礎知識」に目を通しておくことが望ましいです。選択科目群Aの科目を専攻以外の学生が履修する場合は、前提知識の目安について事前に担当教員に確認しておくことが望ましいです。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する選択必修科目（2単位）と選択科目を合わせて8単位以上取得することとします。選択必修科目は、できる限り最初に履修してください。
	(注1) 選択科目群Bの受講は3単位を上限とします。 (注2) 「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修済みであることを条件とします。 (注3) 「国連政策エキスパート・キャリア形成論」、「難民問題から世界を見る」及び「海外インターンシップⅡ」については、同名称の科目履修は1科目のみとしてください。	
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します)	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
選択必修科目						
720103	国連政策エキスパート・キャリア形成論		2	1 学期	GLOCOL（院）	どちらか1 科目のみ
311277	特殊講義（国連政策エキスパート・キャリア形成論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
選択科目群A						
310013	国際連合システム論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311031	特殊講義（国際行政論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310534	プロジェクト演習（国際安全保障ワークショップ）M		2	通 年	国際公共政策研究科（博士前期）	
310930	特殊講義（国際貿易論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311265	特殊講義（地域統合）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310518	演習（総合安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311301	特殊講義（国際人道法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	2科目は 同一科目
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
360219	Global Threats and Sustainability		2	2 学期	CSCD（院）	
211631	コンフリクトの人文科学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211632	コンフリクトの人文科学特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216002	国際協力学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216003	国際協力学特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720111	開発援助における評価の理論と実践		2	集 中	GLOCOL（院）	
選択科目群B						
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	履修はいず れかのみ
720107	海外インターンシップⅡ（A）		1	1 学期	GLOCOL（院）	
721107	海外インターンシップⅡ（B）		1	2 学期	GLOCOL（院）	
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	
720104	フィールドワークの実践と倫理		1	1 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	グローバル健康環境	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、医学系研究科、薬学部、薬学研究科、工学研究科、国際公共政策研究科	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	近年、薬・食の安全性、新興・再興感染症や院内感染の問題、地球温暖化や大気・土壌・水質汚染といった地球規模での環境問題と、環境の変化が人間の心身の健康に及ぼす影響に関する懸念が高まっています。本プログラムでは、健康に影響を与える物質的・社会的環境問題を理解し、それぞれの専門知識を生かしながら、その解決方法を導くことのできる人材を育成することを目標とします。 本プログラムは、必修科目で、人間を取り巻く物質的・社会的環境とその健康影響に関して、基盤となる重要な知識を習得したうえで、受講生各々の興味に応じて選択科目を履修するように構成されています。選択科目には国際健康政策や国際協力に関するものから、環境工学、健康科学まで、理系・文系の枠にとらわれず、幅広く履修できるようになっています。 また、海外体験型学習プログラムを組み込み、食環境、住環境、自然環境、社会環境を含めた環境の変化が人間の心身の健康に及ぼす影響を、グローバルな視点から具体的に考察できるような場を設けます。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目、選択必修科目、選択科目を合わせて8単位以上取得することとします。ただし、必修科目と選択必修科目で6単位以上取得してください。必修科目は、できるだけ最初に履修してください。 (注1)「国連政策エキスパート・キャリア形成論」、「難民問題から世界を見る」及び「海外インターンシップⅡ」については、同名称の科目履修は1科目のみとしてください。 (注2)薬学研究科所属で海外フィールドスタディ科目を受講希望の場合は、応用環境生物学特別講義を選択してください。 (注3)「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修中ないしは履修済みであることを条件とします。 (注4)学部生は、学部レベルに配当された科目から履修してください。
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します)	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720102	グローバル健康環境	2		1 学期	GLOCOL（学部・院）	
選択必修科目						
271015	衛生・微生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
071084	遺伝情報解析学特論		1	1 学期	薬学部	271015と同一
271018	情報・計量薬学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
071097	医薬情報解析学特論		1	1 学期	薬学部	271018と同一
271009	毒性学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
071088	毒性学特論		1	1 学期	薬学部	271009と同一
250506	疫学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
255002	生涯保健学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255003	環境保健学		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
271075	発展途上国における感染症 の現状と対策		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
251513	国際感染症学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
720103	国連政策エキスパート・ キャリア形成論		2	1 学期	GLOCOL（院）	2科目は 同一科目
311277	特殊講義（国連政策エキスパート・ キャリア形成論）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
250507	疫学各論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	集中
720351	環境問題への回路Ⅰ		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
720305	環境問題への回路Ⅱ 実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
720306	環境問題への回路Ⅲ		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
720307	Food Security, Globalization and Sustainability		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
251503	健康政策学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
216076	地域知識論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
720111	開発援助における評価の理 論と実践		2	集 中	GLOCOL（院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	2科目は 同一科目
311313	特殊講義（難民問題から世界 を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
選択科目（フィールド実践科目群）						
271019	応用環境生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720107	海外インターンシップⅡ (A)		1	1 学期	GLOCOL（院）	履 修 は ど ち らかのみ
721107	海外インターンシップⅡ (B)		1	2 学期	GLOCOL（院）	
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	
720113	海外フィールドスタディ S		1	集 中	GLOCOL（院）	
720104	フィールドワークの実践と 倫理		1	1 学期	GLOCOL（学部・院）	

プログラム名称	東アジアの地域環境	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、経済学研究科、薬学研究科、環境イノベーションデザインセンター	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	東アジア地域は世界経済の“成長センター”と言われ、世界経済を牽引すると同時に、東アジア地域内でも巨大な市場を形成しつつあります。一方、東アジアが抱える環境問題は深刻化、複雑化、そして多様化しています。また、東アジア地域と世界、地域内の関係は、依存と協力、対立と衝突という相反するメカニズムによって、流動化と複雑化を深めています。 本プログラムでは、地域環境をキーワードに東アジアの地域環境と社会および地域環境と社会の形成との関係を俯瞰的・構造的な理解に加えて、地域内で抱える様々な環境問題を地域研究及び学際的な研究によって示された多様な具体的な事例を通じて学び、地域環境の特徴、特質が近代化という理念、プロセスとの因果関係を把握することを目指します。また、本プログラムでは、現地調査、地域の人々との交流、学生同士、学生と教員との討論などを通じて、より現実に近い形で問題、課題を把握し、実践を通じて環境問題を解決する可能性と方法を習得します。 本プログラムは、ローカルとグローバル2つの視点から東アジアの地域環境を捉える方法論を学び、実践を通じて知識を検証し、そして最終的には自分の認識、価値観を再検討する、再構築することを目指します。	
履修資格・条件	資格や条件はありません。環境問題に関心がある、あるいはアジアの将来に関心を寄せたいすべての学生を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありませんが、授業期間中、環境問題や災害に関するニュースをチェックすることが授業の理解に役立ちます。	
修了要件	8単位以上	本プログラム修了には必修科目4単位、選択必修科目Aから2単位以上取得し、更に選択必修科目Bから2単位を加えて、合計8単位以上を取得することが必要です。
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ: http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階)及びギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階) (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載します)	
特記事項	次のページの科目名で“*”記号が付けられているものは、英語での開講となっています。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720402	東アジアの環境の現状と未来	2		1 学期	GLOCOL（学部・院）	
720351	環境問題への回路Ⅰ	2		1 学期	GLOCOL（学部・院）	
選択必修科目 A（これらの科目から2単位以上取得）						
216076	地域知識論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科 （学部・院）	
720304	環境問題への回路Ⅱ		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
720306	環境問題への回路Ⅲ		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
720305	環境問題への回路Ⅱ 実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部・院）	
720307	Food Security, Globalization, and Sustainability*		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
720213	グローバルコラボレーション言 語Ⅰ		2	2 学期	GLOCOL（院）	
720214	グローバルコラボレーション言 語Ⅱ		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720201	グローバルコラボレーションの 理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（学部・院）	
271019	応用環境生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
232111	アジア環境・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科 （博士前期）	
232123	事例研究（アジアにおける環境 保全活動		2	2 学期	経済学研究科 （博士前期）	
選択必修科目 B（2単位まで認定）						
720108	海外フィールドスタディ		2	通 年	GLOCOL（院）	
720113	海外フィールドスタディ S		1	集 中	GLOCOL（院）	

プログラム名称	環境イノベーションデザイン学	
プログラム実施部局	環境イノベーションデザインセンター	
連携部局	工学研究科、人間科学研究科、経済学研究科、国際公共政策研究科、法学研究科、基礎工学研究科、医学系研究科、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)、グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	低炭素・循環型・安全安心社会を実現する上では、将来ビジョン・シナリオを構想し、同時に相応しい科学技術や制度を一体になって創造するという「想創技術社会」の形成が求められています。そのためには、将来の社会のビジョンのデザインに加え、そのビジョンを実現するための様々な社会変革（イノベーション）を誘導することが必要となっています。本プログラムは、サステナビリティや環境問題に関連する様々な学問領域の俯瞰的・構造的な理解に加え、将来ビジョンとさまざまな分野の研究成果を結び付けイノベーションを誘導するための学問的アプローチ（環境イノベーションデザイン）について学びます。とくにコア科目の中では、グループワークやディスカッションの機会を設け、座学だけではなく実践力を身につけさせるプログラム構成としています。また本プログラムでは実地見学や短期プログラムなどを実施し、現場にいる人たち、他大学との学生と交流する機会も提供します。このプログラムを通じて、大阪大学の学生が、サステナビリティや環境イノベーションデザイン学の知識・考え方を身につけたそれぞれの専門家として、広く社会で活躍することを期待しています。	
履修資格・条件		
前提知識の要否・目安	前提知識は必要ありません。好奇心がある人、自分の専門を生かして社会を変えたいと思う人、学内外を含めいろいろな人と交流の機会を持ちたい人、是非受講して下さい。	
修了要件	8単位以上	1. サステナビリティ学科目群（必修選択コア科目5科目、選択科目33科目）の中から4科目8単位を履修します。 2. 必修選択科目5科目の中から2科目4単位を履修します。
ホームページ・問い合わせ先等	担当：上須 道徳 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 産学連携本部・総合企画推進部D棟6F Tel 06-6879-4150 E-mail : edu@ceids.osaka-u.ac.jp URL : http://www.ceids.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) まちづくりデザイン学との合同 平成25年4月5日(金) 10時30分～11時30分 産学連携本部・総合企画推進部A棟1Fセミナー室 ※超高压電子顕微鏡センター南側又は犬飼池西側 学際融合教育研究センター主催の合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	環境・サステナビリティに関心がある人、自分の専門を生かして社会を変えたいと思う人、学内外を含めいろいろな人と交流の機会を持ちたい人理系・文系を問わず全学からの学生を歓迎します。本プログラムを通じて皆さんのそれぞれの研究が持続可能な社会構築とどのように結びつくのか、ぜひ探求してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		選択必修	選択			
C50202 281010	サステイナビリティ評価・技術論	2		1 学期	全学教育推進機構（環境イノベーションデザインセンター）（院） 工学研究科（博士前期）	
360219	Global Threats and Sustainability	2		2 学期	CSCD（院）	
360413	Frontier of sustainability science	2		1 学期	CSCD（院）	
211182	環境と社会特講	2		1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
C50201 281187	環境イノベーションデザイン実践	2		2 学期	全学教育推進機構（環境イノベーションデザインセンター）（院） 工学研究科（博士前期）	
720307	Food security, globalization and sustainability		2	1 学期	GLOCOL（院）	
210582	環境心理学特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
220409	法政策学		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期 2 学期	CSCD（院）	
290052	科学技術論A		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
232111	アジア環境・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232123	事例研究（アジアにおける環境保全活動）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
251505	環境健康リスク論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
281042	生物資源工学特論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280849	需要端エネルギーシステム工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280845	共生都市環境論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280907	地域・交通計画論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280909	プロジェクトマネジメント論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280771	機能材料化学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280777	環境材料工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280067	加工数理解析システム論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280453	燃烧工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280754	輸送現象論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	25年度不開講
280947	機械工学特別講義Ⅱ		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280999	環境化学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280920	環境エネルギー化学特別講義Ⅰ		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280921	環境エネルギー化学特別講義Ⅱ		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
231138	エネルギーシステム・要素論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280025	パワーエレクトロニクス理論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281039	電力・エネルギーシステム計画・運用論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280943	ライフサイクル工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280643	技術知マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280658	都市・地域再生論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
231073	経済学特論（日本経済分析Ⅰ）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720305	環境問題への回路Ⅱ：実践・演習		2	2 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学大学院の各部局で従来個別に実施してきた学際性の極めて強いナノサイエンス・ナノテクノロジーに関連する大学院講義を部局横断型に再編統合し、複数の高度学際教育プログラムを編成してあります。これらの高度学際教育プログラムの履修により、従来の専門領域に加えてナノサイエンス・ナノテクノロジーの体系化された幅広い知識を修得させ、よって有能なナノ関連分野の基礎研究開発能力と社会での活用能力を持つ人材の育成を目的とします。 カリキュラム構成は、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関わる学生が広く聴講すべき講義群を、基盤講義（基盤講義群）、個々の分野の専門性が強い講義（専門講義群）、及び、研究者として巣立つための講義群（アドバンス講義群）に分類して、これに社会におけるナノテクノロジーの活用実例や社会受容における課題を講義するナノテクキャリアアップ特論（必修、吹田・豊中遠隔中継）、同デザイン特論A、B、および同社会受容特論A（選択科目、吹田、豊中、中之島遠隔中継）を加えて、全学の学生に対して履修を推奨します。このプログラムでは講義のみならず夏期集中で部局横断的な演習、実験を含めた高度実習訓練（約30課題）を行うことを特徴としています。 大学院博士前期課程向けの高度学際教育プログラムとして、以下の5つのプログラムを平成25年度に実施します。 ①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③超分子ナノバイオプロセス学 ④ナノ構造・機能計測解析学 ⑤ナノフォトンクス学 ⑥ナノテク文理融合プログラム	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	一般に、理工系の学部レベルの知識を必要としますが、理工系に強い関心を持つ文系出身者向けには、ナノテク技術活用を広く見渡せる、⑥ナノテク文理融合プログラムが準備されています。（特記事項参照）	
修了要件	9単位以上	本プログラム修了認定には、1つのプログラムの中から講義科目8単位（うち所属の専攻または領域の授業科目にない講義科目4単位以上を含む）、および集中実習科目1単位を修得することが必要です。ただし、修得した単位（「ナノテクキャリアアップ特論」、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」、「ナノテクノロジー社会受容特論A」、「集中実習科目」を含む）のうち最低4単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行って下さい。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。 ナノプログラム事務局：豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室（G104） メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線(6398)	
説明会の日程	【ナノサイエンスデザイン教育研究センター プログラム説明会】 【吹田】H25.4. 9（火）12:10～12:50 工学研究科U3-311（U3棟3階） 【豊中】H25.4.11（木）12:10～12:50 基礎工学研究科G508（G棟5階） 【豊中】H25.4.16（火）12:10～12:50 理学研究科G103（G棟1階 塩見記念室） 【高度副プログラム・副専攻プログラム合同ガイダンス2013】 （吹田）H25.4.10（水）12:00～15:00 理工学図書館 図書館ホール（3階）及びギャラリーゾーン（2階） （豊中）H25.4.12（金）12:00～15:00 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	文系出身者向けの⑥ナノテク文理融合プログラムでは、ナノテクキャリアアップ特論（必修）、ナノテクノロジー社会受容特論A、ナノテクノロジーデザイン特論A、及び同B、科学技術移転論の講義科目と、①～⑤のプログラムのうちから実習1科目（必修）を履修（H25はデザイン特論Aに替えて他の実習1科目選択可）すれば、理系専門科目を必ずしも履修しなくてもプログラム修了が可能です。 【重要】授業科目名欄に（*）印のある授業科目は平成25年度のみ開講が確定しており、平成26年度以降の継続開講については未定のため、本プログラムを確実に修了するためには、これらの科目は平成25年度内に単位取得すること。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290627	ナノテクキャリアアップ特論（＊）	2		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	吹田・豊中 TV配信
290705	ナノテクノロジーデザイン特論A		2	不開講	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290706	ナノテクノロジーデザイン特論B（＊）		2	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290704	ナノテクノロジー社会受容特論A（＊）		1	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						全14科目
290433	理論物質科学		2	1学期	基礎工学研究科	他12科目
241256	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						全27科目
280783	材料設計論		2	2学期	工学研究科	他25科目
240928	ナノプロセス・物性・デバイス学（＊）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
③超分子ナノバイオプロセス学						全30科目
271020	細胞生物学特別講義		1	1学期	薬学研究科	
250002	人体形態機能学概論		3	1学期	医学系研究科	他27科目
240929	超分子ナノバイオプロセス学（＊）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
④ナノ構造・機能計測解析学						全17科目
320001	基礎物理学Ⅰ		2	通 年	生命機能研究科	他15科目
240930	ナノ構造・機能計測解析学（＊）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
⑤ナノフォトニクス学						全18科目
280206	光量子工学		2	1学期	工学研究科	他16科目
240931	ナノフォトニクス学（＊）	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
⑥ナノテク文理融合プログラム						
290566	科学技術移転論		2	2学期	基礎工学研究科	
	①～⑤プログラム中の集中実習のいずれかを選択	1		通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	集中実習
	実習で選択した①～⑤プログラム中でリストされた講義科目					

※表中の「他科目」については、ナノサイエンスデザイン教育研究センターの発行する案内冊子を確認してください。

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程社会人特別選抜) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(後期課程社会人)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	博士課程におけるプログラムでは、将来の研究リーダーとして、ナノ関連の複数分野の最新科学技術を選択的に導入し統合する能力と見識の涵養、技術の社会受容の重要性を十分に認識した研究の立案や推進などの研究統括能力の育成を目指しています。そこで、ナノサイエンス・ナノテクノロジー関係に現在従事しているか、将来従事したいと考えている社会人特別選抜学生が、主専攻以外に付加価値としてナノテクの深化や多様化について副専攻的に受講することは、上記の視点で大いに役立つものと考えられます。また、社会人DCの場合、遠隔地勤務ではスクーリングによる講義受講・討論等は難しく、遠隔講義システムによるサテライト教室での受講は本人の負担を軽減することにも繋がります。 そこで、本プログラムでは、現在社会人教育向けに開講されている講義群を社会人特別選抜学生にも開放し、1つのコースを選んで遠隔受講を許可し、土曜集中講座(社会受容特論A、デザイン特論A/B)、スクーリング実習も合わせて聴講可とする副プログラムを開講します。	
履修資格・条件	博士後期課程に在学する社会人特別選抜学生を対象とし、職場の関係で来学が困難な者が遠隔講義システムを利用してサテライト教室にてライブ受講することが条件です。	
前提知識の要否・目安	—	
修了要件	10単位以上	本プログラムの修了認定には、科目表の①～⑤のプログラム群から1つのプログラムを選び、土曜集中講座、スクーリング集中実習を含めて10単位以上を修得することが必要です。ただし、集中実習は土曜集中講座に代えることができます。なお、修得した単位のうち最低4単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行って下さい。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。 ナノプログラム事務局：豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室(G104) メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線(6398)	
説明会の日程	下記日時に説明会を開催しますが、3月29日の履修指導に引き続き特別講義から開始のため、事前の説明会はいりません。随時ナノプログラム事務局へ問い合わせてください。講義内容等は、ナノプログラムのホームページ上に掲載されている社会人教育の項を参照してください。 社会人教育プログラムH25年度開講式(履修指導)及び特別講義： H25.3.29(金) 18:00～21:00 大阪大学中之島センター 10F メモリアルホール 合同ガイダンス： (吹田) H25.4.10(水) 12:00～15:00 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及びギャラリーゾーン(2階) (豊中) H25.4.12(金) 12:00～15:00 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	いずれのプログラムも、所属研究科の博士研修(主専攻)とは別に副プログラムとして付加的に受講するものですので、十分な意欲が必要であり、現在博士後期課程1,2年に在学中が最もふさわしい時期と言えます。希望者は本プログラムの趣旨とテーマ内容の概要を参考にして、説明会開催時期、課題内容、履修条件などの詳細をホームページ上で必ず確認の上、説明会での指示に従って主専攻の指導教員の許可を得て、添付の履修申請書(後期課程用)をナノプログラム事務局へ直接提出して下さい。 【重要】 授業科目名欄に(*)印のある授業科目は平成25年度のみ開講が確定しており、平成26年度以降の継続開講については未定のため、本プログラムを確実に修了するためには、これらの科目は平成25年度内に単位取得すること。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290705	ナノテクノロジーデザイン特論A		2 #	不開講	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	#1科目 選択必修
290706	ナノテクノロジーデザイン特論B （*）		2 #	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290704	ナノテクノロジー社会受容特論A（*）		1 #	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						全3科目
290593	ナノマテリアル・ナノデバイスデザインA（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290594	ナノマテリアル・ナノデバイスデザインB（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
241256	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1		通 年	理 学 研 究 科（専攻・領域外科目）	集中実習
②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						全3科目
290595	ナノエレクトロニクス・ナノ材料A（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290596	ナノエレクトロニクス・ナノ材料B（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
240928	ナノプロセス・物性・デバイス学（*）	1		通 年	理 学 研 究 科（専攻・領域外科目）	集中実習
③超分子ナノバイオ・フォトンクス学						全3科目
290597	超分子ナノバイオ・フォトンクスA（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290598	超分子ナノバイオ・フォトンクスB（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
240929	超分子ナノバイオプロセス学（*）	1		通 年	理 学 研 究 科（専攻・領域外科目）	集中実習
④ナノ構造・機能計測解析学						全3科目
290599	ナノ構造・機能計測解析学A（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290600	ナノ構造・機能計測解析学B（*）	4		通 年	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
240930	ナノ構造・機能計測解析学（*）	1		通 年	理 学 研 究 科（専攻・領域外科目）	集中実習
⑤ナノフォトンクス学						不開講

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程教育研究訓練プログラム) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(後期課程)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	所属研究科の博士研修（主専攻）とは別に副プログラムとして付加的に受講する教育研究訓練プログラムで、主専攻の研究以外に複眼的に幅広く企業の研究開発手法を経験したり、異分野の研究を経験することにより、博士人材として必要なスキルアップを図ることができます。将来、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの分野の教育研究開発に携わる場合に不可欠な知識を身につけるために、講義と討論からなる土曜集中講義「ナノテクノロジー社会受容特論」（必修）、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」（いずれか1科目必修）を修得すると同時に、以下の2種類のプログラム（1年間にわたる週1回の教育研究訓練）のいずれかを選択して履修します。 1. 「産学リエゾンP A L 教育研究訓練」 産学リエゾンP A L 教育研究訓練は、1週間に1回程度（集中の場合もあり）の割で企業併任特任教授と学内教員の共同指導の下に、企画討論、研究実施、中間報告、企業でのインターンシップ、企業の若手研究者との交流等を経て、最終報告書作成に至る1年間の長期プログラムです。次段階の研究訓練では、より企業との共同研究的色彩が強くなります。 2. 「高度学際萌芽研究訓練」 高度学際萌芽研究訓練は、1週間に1回程度（集中の場合もあり）の割で学内教員の指導の下に、異分野の大学院生がナノサイエンスラボラトリーに集まって、企画討論、研究実施、中間報告等を経て、最終報告書作成に至る1年間の長期プログラムです。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	—	
修了要件	8単位以上	「産学リエゾンP A L 教育研究訓練」（5単位）あるいは「高度学際萌芽研究訓練」（5単位）のいずれかを選択し、同時に「ナノテクノロジー社会受容特論」（1単位：必修）、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」（2単位：いずれか1科目必修）を組み合わせ、8単位以上を修得することが必要です。
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行って下さい。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。 ナノプログラム事務局：豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室（G104） メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線（6398）	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) H25.4.10(水)12:00～15:00 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） (豊中) H25.4.12(金)12:00～15:00 総合図書館 図書館ホール（6階） 上記とは別にテーマ説明会を4月下旬に開催予定です。詳しくは上記ナノプログラムホームページを参照のこと。	
特記事項	いずれのプログラムも、所属研究科の博士研修（主専攻）とは別に副プログラムとして付加的に受講するものですので、十分な意欲が必要であり、現在博士後期課程1、2年に在学中が最もふさわしい時期と言えます。希望者は本プログラムの趣旨とテーマ内容の概要を参考にして、説明会開催時期、課題内容、履修条件などの詳細をホームページ上で必ず確認の上、説明会での指示に従って主専攻の指導教員の許可を得て、添付の履修申請書（後期課程用）をナノプログラム事務局へ直接提出して下さい。 【重要】 授業科目名欄に（*）印のある授業科目は平成25年度のみ開講が確定しており、平成26年度以降の継続開講については未定のため、本プログラムを確実に修了するためには、これらの科目は平成25年度内に単位取得すること。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290704	ナノテクノロジー社会受容 特論A（＊）	1		集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
290705	ナノテクノロジーデザイン 特論A		2 #	不開講	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	# A または B を選択必修
290706	ナノテクノロジーデザイン 特論B（＊）		2 #	集 中	基礎工学研究科 （専攻・領域外科目）	
241325	産学リエゾンP A L 教育研 究訓練（＊）		5 #	通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	#いずれか 1科目を選択
241326	高度学際萌芽研究訓練		5 #	通 年	理学研究科 （専攻・領域外科目）	

プログラム名称	知的財産法を修得した人材育成	
プログラム実施部局	知的財産センター	
連携部局	法学研究科	
履修対象者	修士 及び 博士	
プログラム概要 及び教育目標	「知的財産立国」が国家目標とされている現在、日々生み出される知的財産を活用・発展させることのできる人材が求められています。そこで、本プログラムは、理系・文系を問わず、様々な領域の研究を行っている大学院生に対して知的財産法の高度な教育を提供することにより、知的財産法に関する知識・理解を社会の発展に役立つように駆使することのできる各分野における専門家を育成することを目指しています。具体的には、科目表を参照してください。	
履修資格・条件	本プログラムの科目は、基本的に双方向的な授業方法で行われますので、受講生は欠席・遅刻しないことが必要です。成績は、平常点2割、期末試験（筆記試験）8割で評価しますが（ただし、演習科目である「産業財産権法特論」、「産業財産権法分析1」及び「著作権法分析」については、平常点4割、期末試験6割で評価します）、欠席に関しては、理由の如何を問わず、欠席回数が4回（「特許法1」については、8回）を超える場合は不合格とします。また、遅刻に関しては、3回の遅刻で1回の欠席として扱い、15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。 本プログラムの科目のうち、「産業財産権法基盤」、「産業財産権関係条約1」及び「産業財産権法分析1」は、「特許法1」、「意匠法1」及び「商標法1」を履修済みであることを履修資格としています。「著作権法分析」は、「著作権法概論」を履修済みであることを履修資格としています。その他の履修資格等については、KOANのシラバスを参照してください。 なお、本プログラムは、弁理士試験短答式一部科目免除制度に対応するものではありません。	
前提知識の要否・目安	授業は、受講生が知的財産法の基礎的な知識を有していることを前提として進められますので、本プログラムを受講しようとする方は、事前に、知的財産法の基礎的な知識を取得しておくようにしてください。たとえば、知的財産法の教科書を少なくとも1冊は読んでおいてください。また、各回の授業について、受講生は予習・復習を各2時間程度行うことが求められることに注意してください。	
修了要件	10単位以上	対象科目から、10単位以上を取得してください。「特許法1」及び「著作権法概論」は必修科目ですので、必ず履修してください。
ホームページ・問い合わせ先等	大阪大学知的財産センター（陳 思勤） TEL 06(6850)5006 FAX 06(6850)6593 E-MAIL chensiqin@iprism.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	1. 知的財産センターの単独説明会 平成25年4月1日（月）20時30分～（時間厳守） 大阪大学中之島センター 講義室201（2階） 2. 合同ガイダンス （吹田）平成25年4月10日（水）12時～15時 理工学図書館 図書館ホール（3階）及び ギャラリーゾーン（2階） （豊中）平成25年4月12日（金）12時～15時 総合図書館 図書館ホール（6階）	
特記事項	* 本プログラムの全ての科目について、受講人数の制限が設けられています。詳細は、KOAN登録の前に、担当教員に確認してください。 * 本プログラムの科目の内容は、KOANのシラバスと各科目の第1回目の授業時にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。 * 本プログラムの科目を履修しようとするときは、やむを得ない事情がある場合を除き、第1回目の授業に参加してください。 * 本プログラムの科目を、やむを得ない事情（例えば、同じ時間帯に他の科目を履修しなければならないこと）により履修できない場合には、豊中キャンパスでの受講を認める可能性があります。その際は、速やかに担当教員に相談してください。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
221345	特許法 1	4		1 学期	法学研究科（博士前期）	
221351	意匠法 1		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221353	商標法 1		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221358	不正競争防止法		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220488	著作権法概論	2		1 学期	法学研究科（博士前期）	
221359	産業財産権法特論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220482	産業財産権法基盤		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	夏季集中
221355	産業財産権関係条約 1		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221360	産業財産権法分析 1		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220509	知的財産経営		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220508	著作権法分析		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	後期集中

※本プログラムの科目は、「産業財産権法基盤」及び「著作権法分析」を除き、大阪大学中之島センターにおいて、平日夜間に開講されます。**豊中キャンパスでは開講されません。**「産業財産権法基盤」は、夏休みの土曜日に集中的に開講されます。「著作権法分析」は、2学期の土曜日に集中的に開講されます。

プログラム名称	産学連携開講講座 実学主義 ～企業の視点から科学する～	
プログラム実施部局	産学連携本部	
連携部局	全学教育推進機構、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、国際公共政策研究科	
履修対象者	修士 及び 博士	
プログラム概要 及び教育目標	産学連携開講講座は、企業と大学が協働して、主として実践型教育プログラムを提供する講座です。この講座では、実学の現場に重点を置き、大学で学ぶ理論が、社会の中でどのように利用されているのか、また実際に社会で利用するうえで、どのようなことを追及する必要があるのか、という点について、実践の中で理解することを目的としています。 講座は実際の企業での製品開発の流れを強く意識した構成とし 1. 製品企画 2. 製品開発 3. 製品評価 を柱に据えた構成を取ります。製品企画では、企業の方々と大学院生が対話を通じ、製品開発に至るプロセスを学び取ることを目指します。製品開発では、実際に企業での演習も予定しており、開発時に重要なポイントを、実践を通じて体験します。製品評価では、大阪府立産業技術総合研究所での実習など、先端測定装置の利用を計画しています。 また各科目を通じて、複数の企業に参加いただき、それぞれの企業の視点でどのように製品開発が成されているのかを実体験してもらい、大学院生に幅広い分野の製品に関わる素養の獲得と、実社会に通用する高度な専門性の習得及びその活かし方を学ぶ契機とします。	
履修資格・条件	なし	
前提知識の要否・目安	「製品開発：プログラミングと制御を学ぶ」の受講については、プログラミングの知識があることが望ましい。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ・問い合わせ先等	産学連携本部 e-square ホームページ http://e2handai.jp/school/program1/s1_about	
説明会の日程	合同ガイダンス (吹田) 平成25年4月10日(水) 12時～15時 理工学図書館 図書館ホール(3階) 及び ギャラリーゾーン(2階) (豊中) 平成25年4月12日(金) 12時～15時 総合図書館 図書館ホール(6階)	
特記事項	実習場の都合による人数制限がある場合があります。実習を行いますので、学生教育研究災害傷害保険に加入は必須です。ガイダンスを行う予定です。	

プログラム構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
C50301	製品企画： 発想の源を探る ～現場担当者によるトークリレー		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	
C50302	製品開発： ニーズ調査と発想法を学ぶ		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	
C50303	製品開発： プログラミングと制御を学ぶ		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	
C50304	製品開発：先端技術開発現場体験		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	
C50305	製品評価：測ることで見える製品ア イデアへのフィードバック		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	
C50306	ソーシャル・イノベーション： 社会ニーズを世界で学ぶ		2	集 中	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院） 国際公共政策研究科 （博士前期）	
241420	先端機器制御学		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
241421	分光計測学		2	集 中	理学研究科（博士前期）	
280697	時空間フォトニクス		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281027	レーザー分光学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
290712	高度な学びの職業への接続を考える		2	集 中	基礎工学研究科 （博士前期）	

学際融合教育科目について

平成25年度から、本学における学際融合教育（研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育）のより一層の充実を目指して、大学院横断教育科目（※）の新たな科目区分として「学際融合教育科目」を設置しました。

学際融合教育科目は、文系の学生でも理系の学生でも受講しやすい科目です。副専攻プログラムや高度副プログラムを受講していなくても、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」として全学の大学院生に提供していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※大学院横断教育科目の既存の科目区分としては、コミュニケーションデザイン科目（コミュニケーション教育及び高度教養教育に関する授業科目）とグローバルコラボレーション科目（真の国際性を備えた人材養成のための教育に関する授業科目）があります。詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

時間割コード	授業科目名	単位数	開講学期	曜日／時限	構成科目に含むプログラム	実施組織
C50101	学際科目 (国際ビジネスと標準化)	2	1 学期	集 中	高度副プログラム 「国際標準化」 P 56	学際融合教育 研究センター
C50102	学際科目 (高度な学びの意味を考える)	2	1 学期	集 中	高度副プログラム 「キャリアデザイン」 P 54	
C50103	日本の進路をデザインする	2	1 学期	集 中	高度副プログラム 「持続可能な日本の進路を考える」 P 34	
C50201	環境イノベーション デザイン実践	2	1 学期	木 3	高度副プログラム 「環境イノベーション デザイン学」 P 106	環境イノベー ションデザイ ンセンター
C50202	サステナビリティ評価技術論	2	2 学期	木 3、4		
C50301	製品企画： 発想の源を探る～現場担当者 によるトークリレー	2	1 学期	集 中	高度副プログラム 「産学連携開講講座 実学主義 ～企業の視 点から科学する～」 P 116	産学連携本部
C50302	製品開発： ニーズ調査と発想を学ぶ	2	1 学期	集 中		
C50303	製品開発： プログラミングと制御を学ぶ	2	1 学期	集 中		
C50304	製品開発： 先端技術開発現場体験	2	1 学期	集 中		
C50305	製品評価： 測ることで見える製品アイデ アへのフィードバック	2	1 学期	集 中		
C50306	ソーシャル・イノベーション： 社会ニーズを世界で学ぶ	2	1 学期	集 中		

※各研究科での学際融合教育科目の取り扱いについて

学際融合教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件としての選択科目や他研究科科目等のように単位認定される研究科と、修了要件には含まないとする研究科がありますので、修了要件に算入できるかどうかについては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

各プログラムの詳細については「プログラム紹介」の各プログラムの問い合わせ先にご照会ください。

(全般的な問い合わせ先)

大阪大学 全学教育推進機構等大学院係

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

TEL : 06-6850-6214



OSAKA UNIVERSITY